

025250-000-4

特61-155

大阪名所独案内 附, 堺名所独案内

篠田 正作 (秋野散史) / 編

M28

ADC-2659

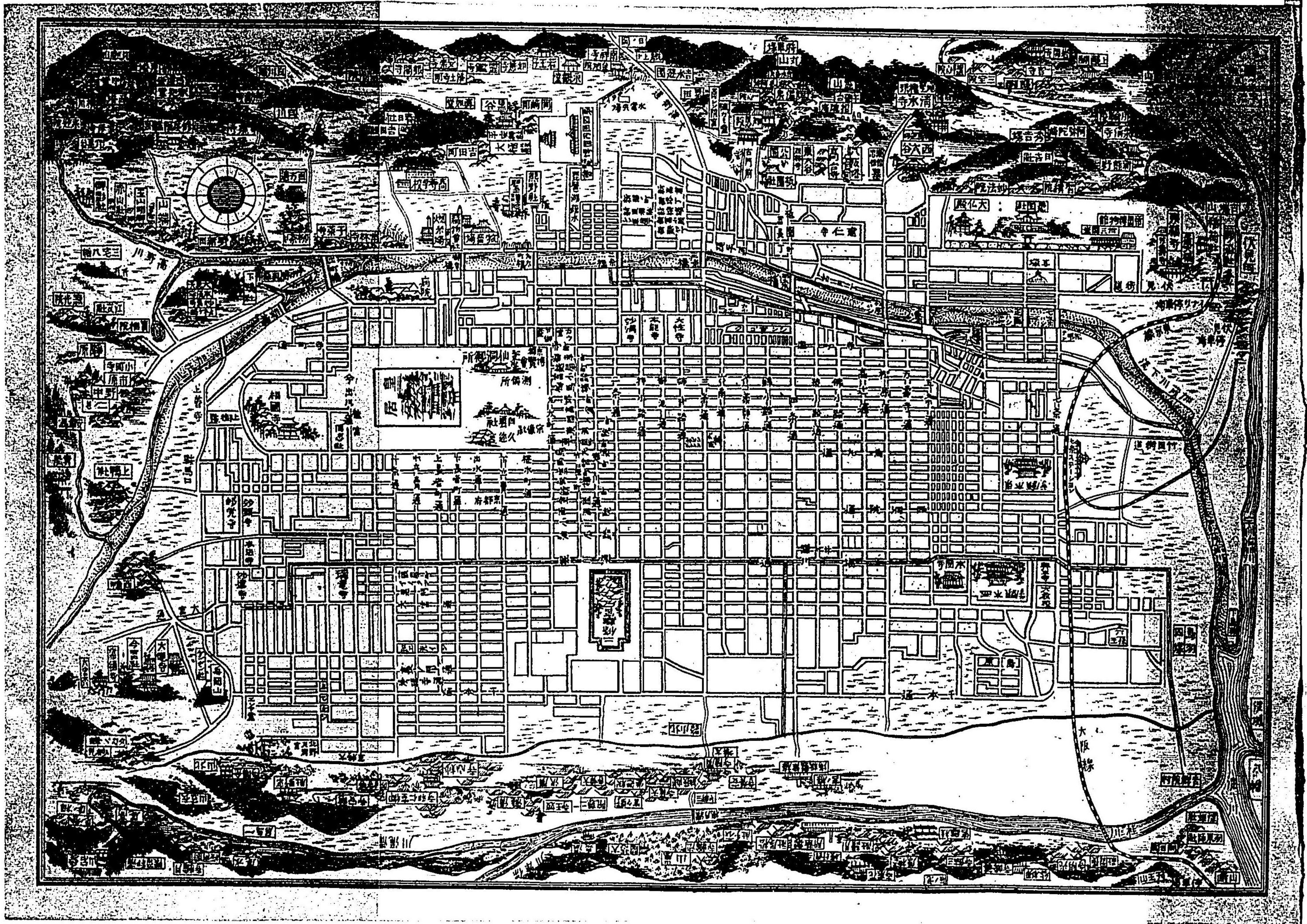


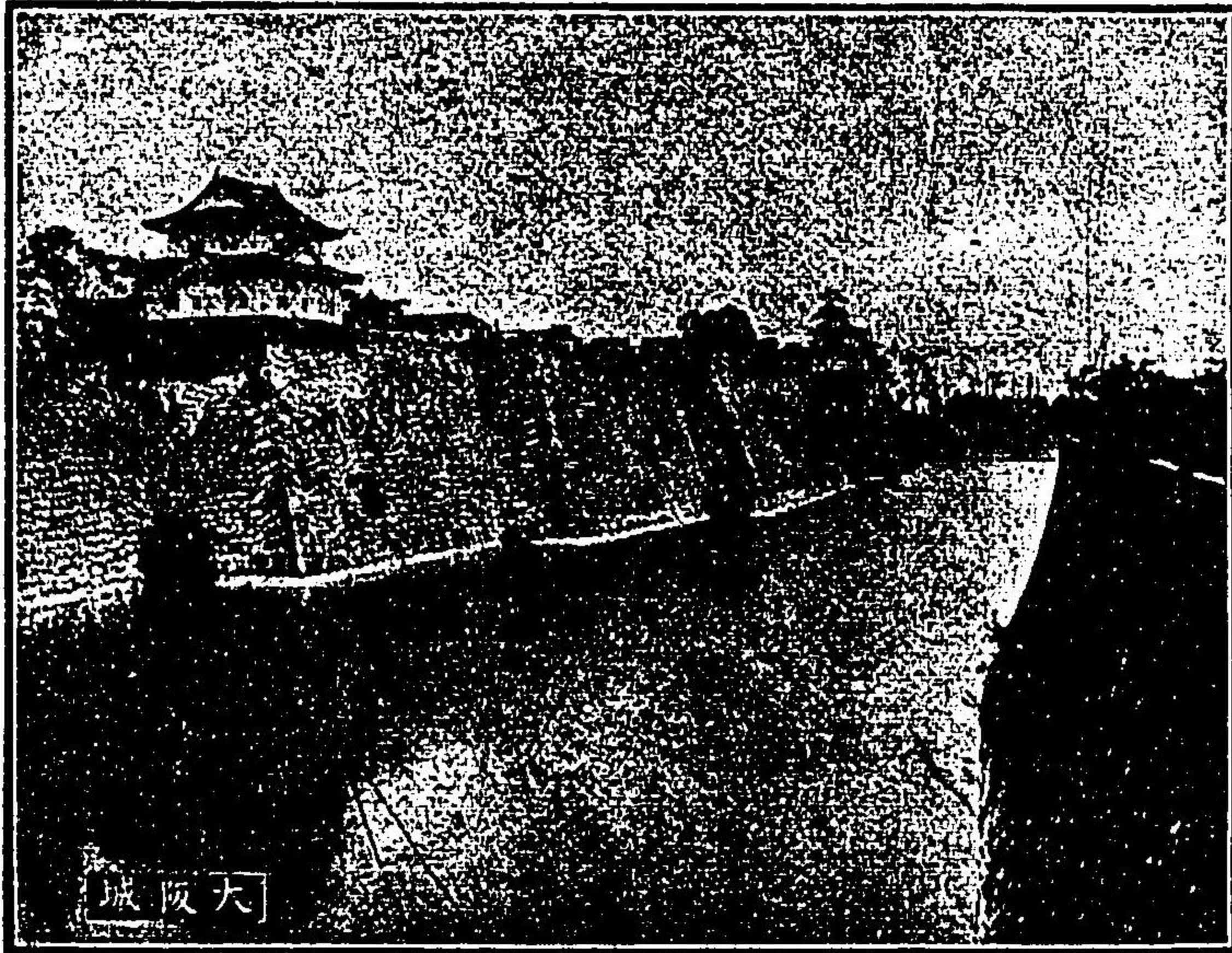
秋野  
散士  
著

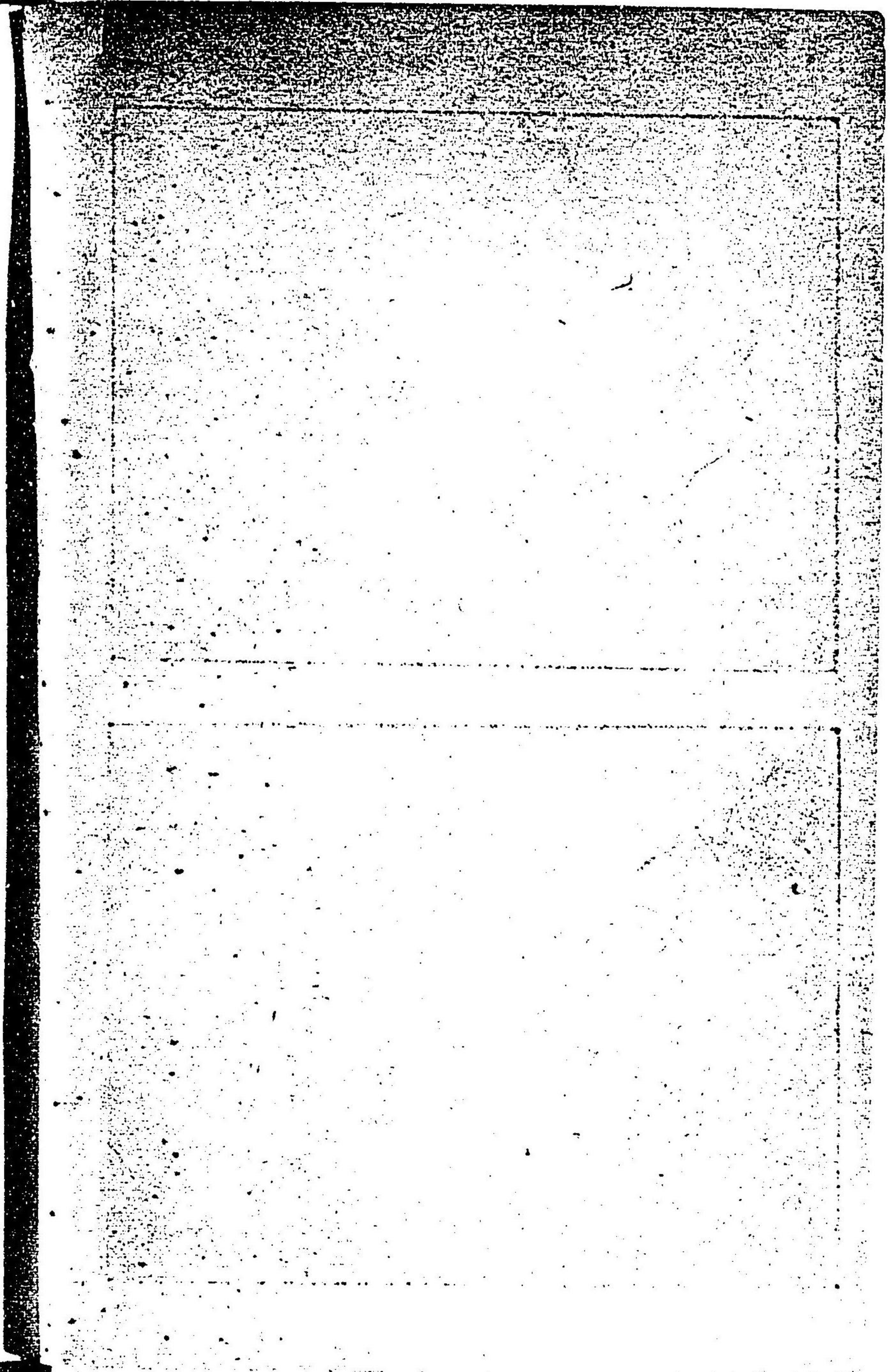
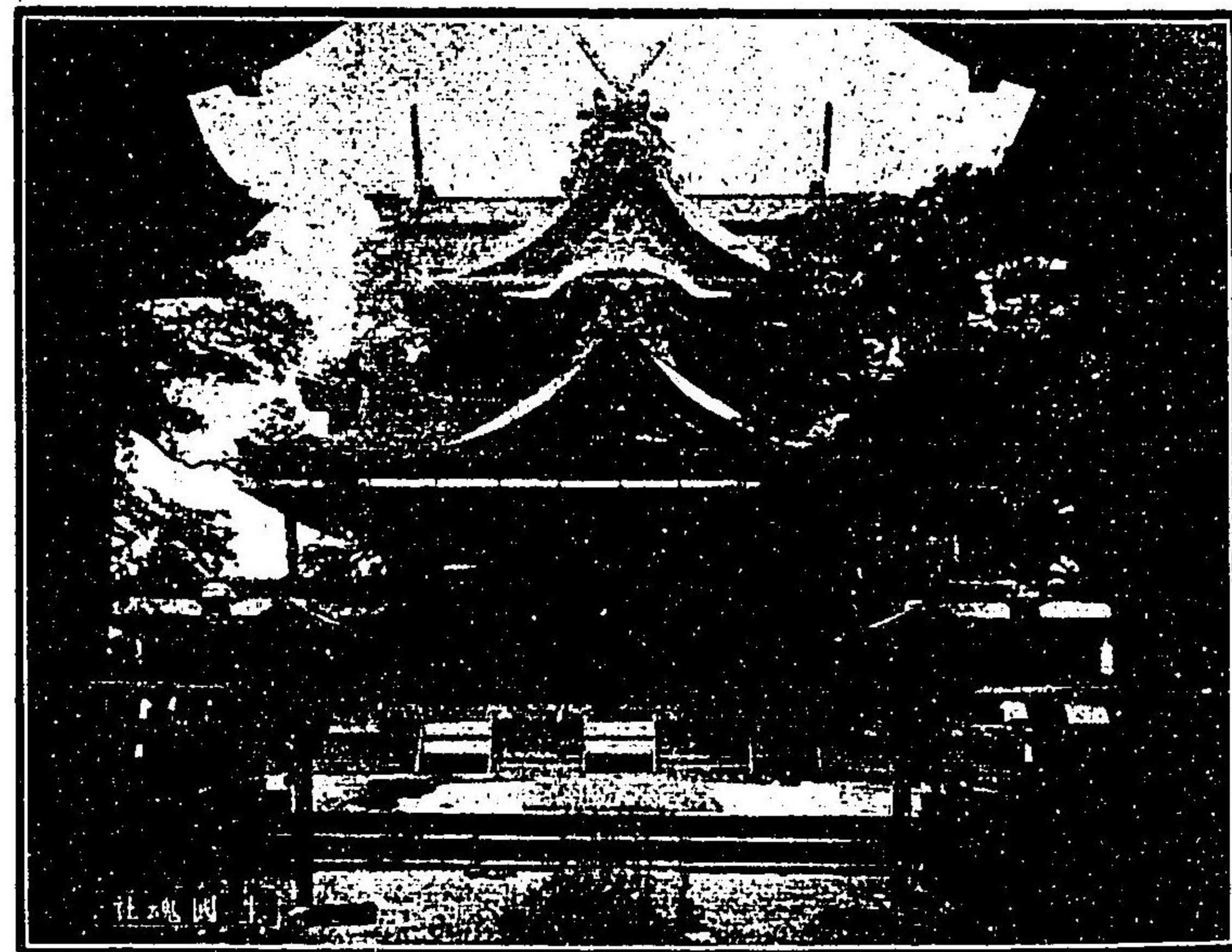
大阪  
五所  
附  
獨  
案  
內



中村  
鍾美  
堂  
發行





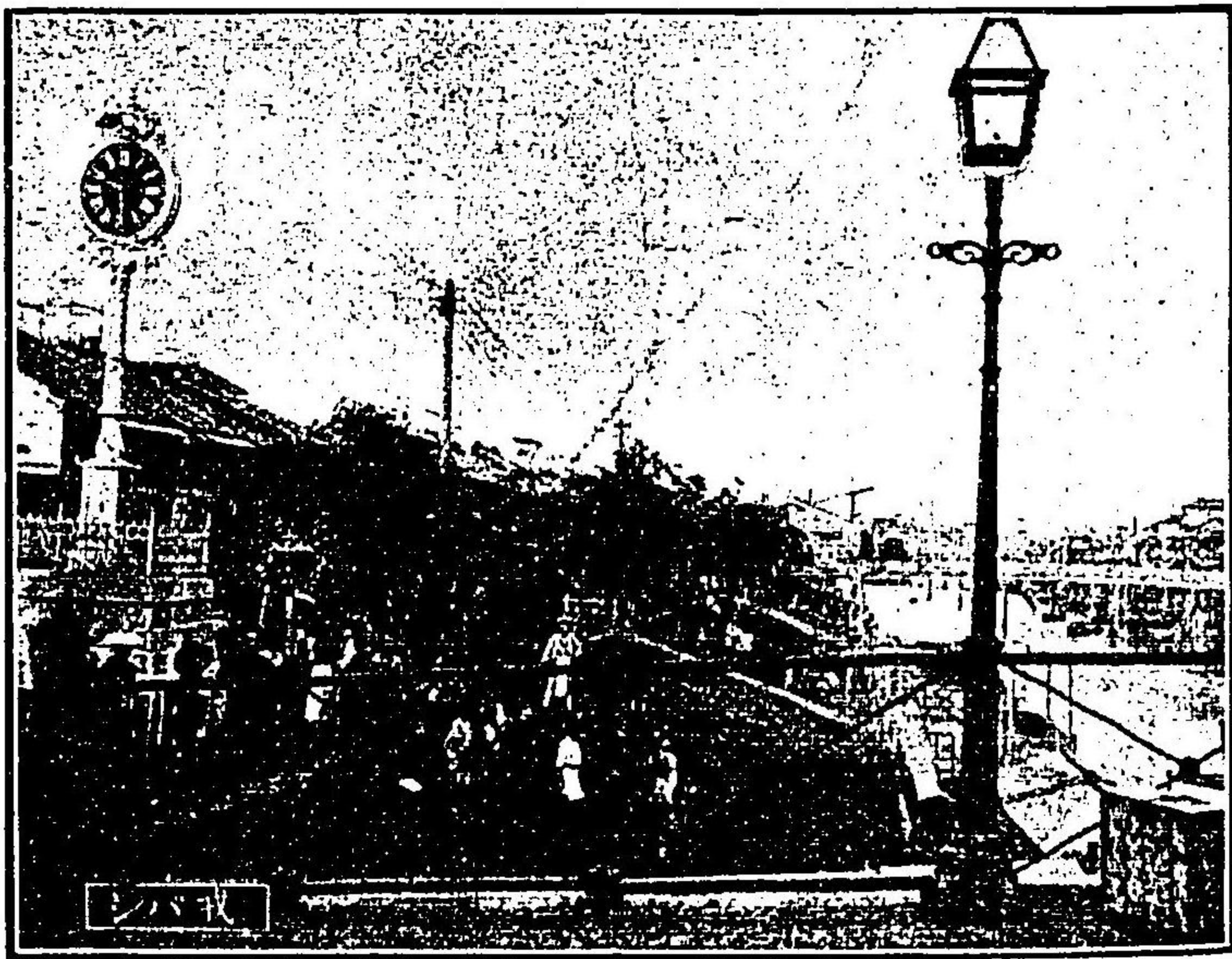
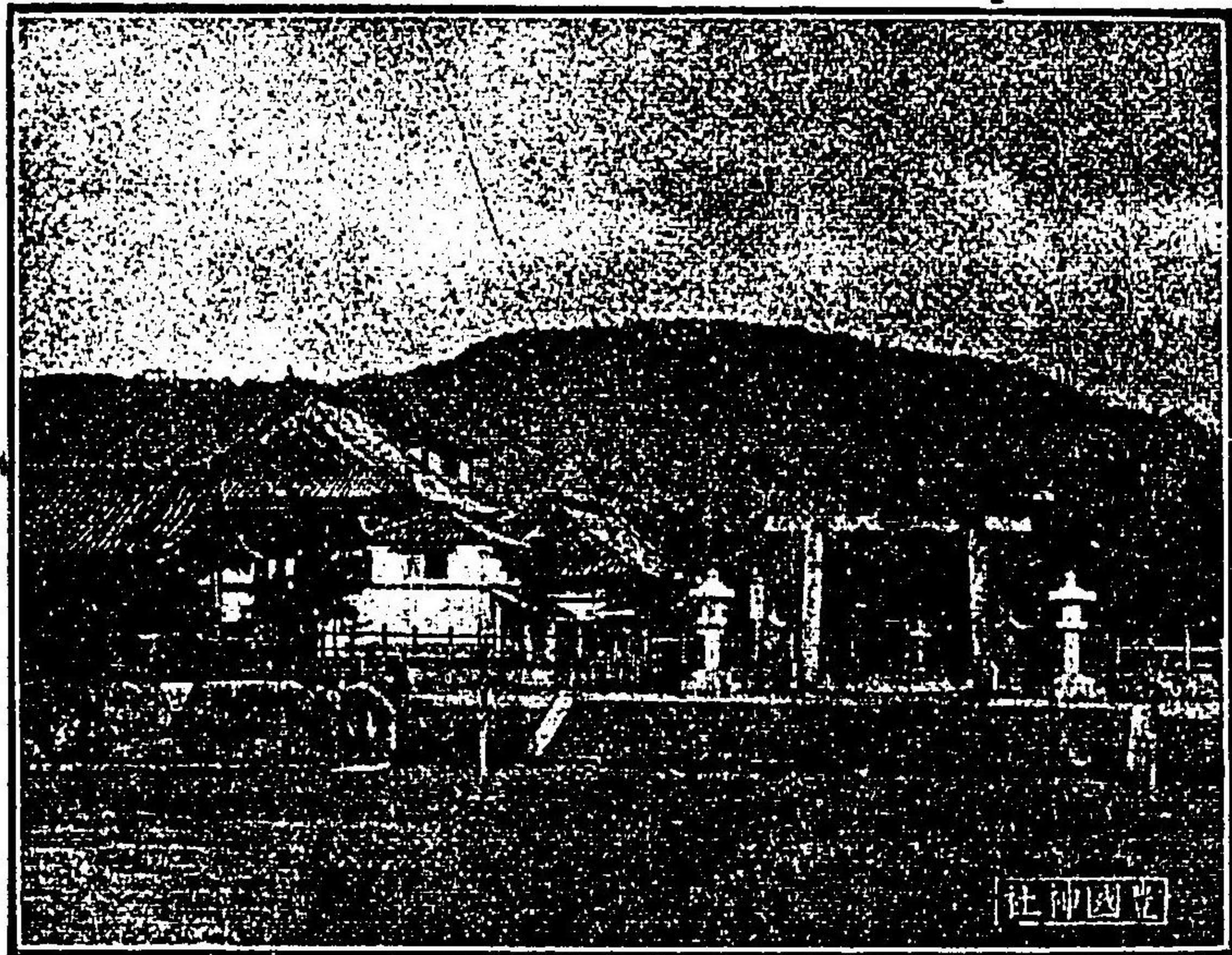




高麗山



道頓堀



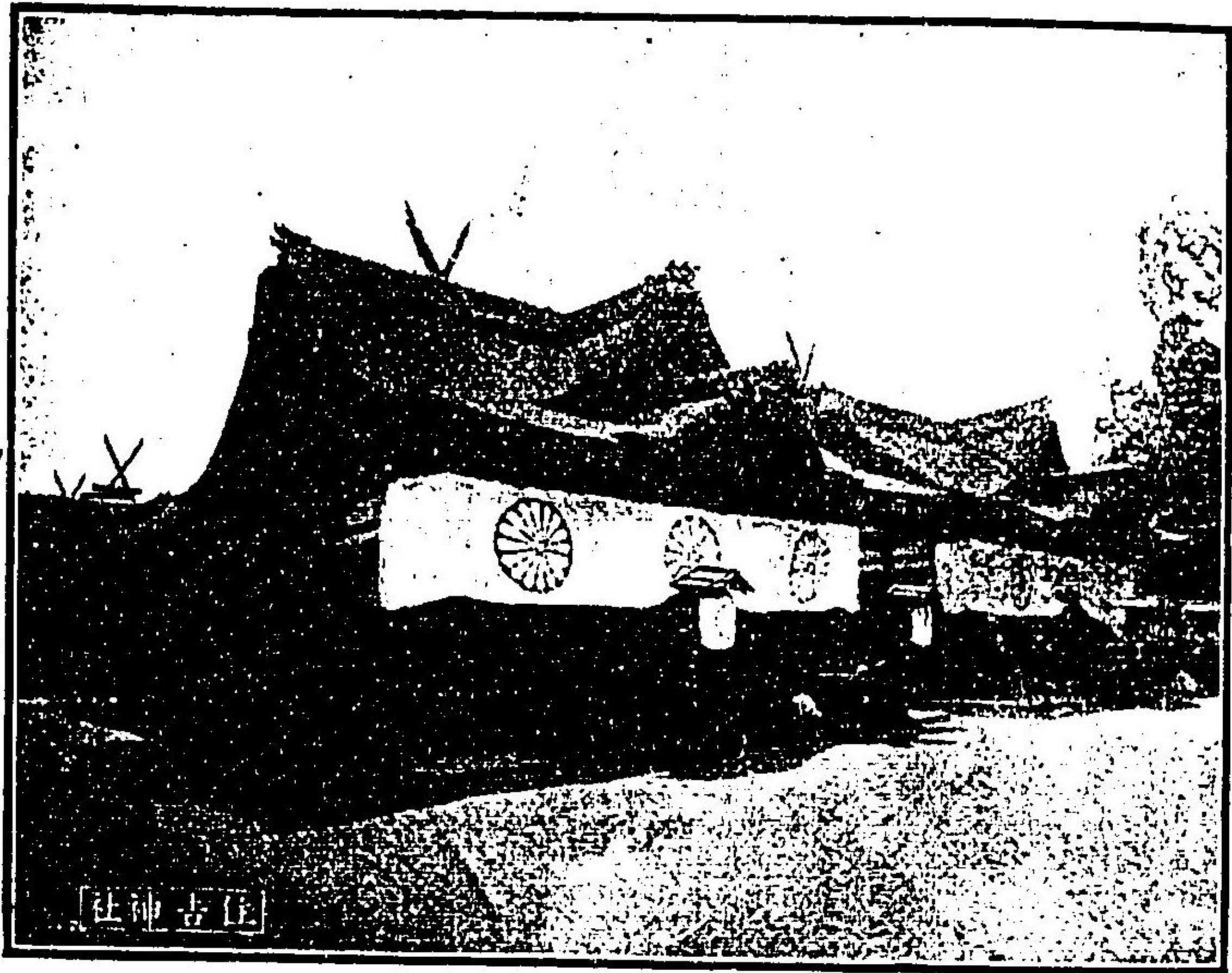


川口波止場

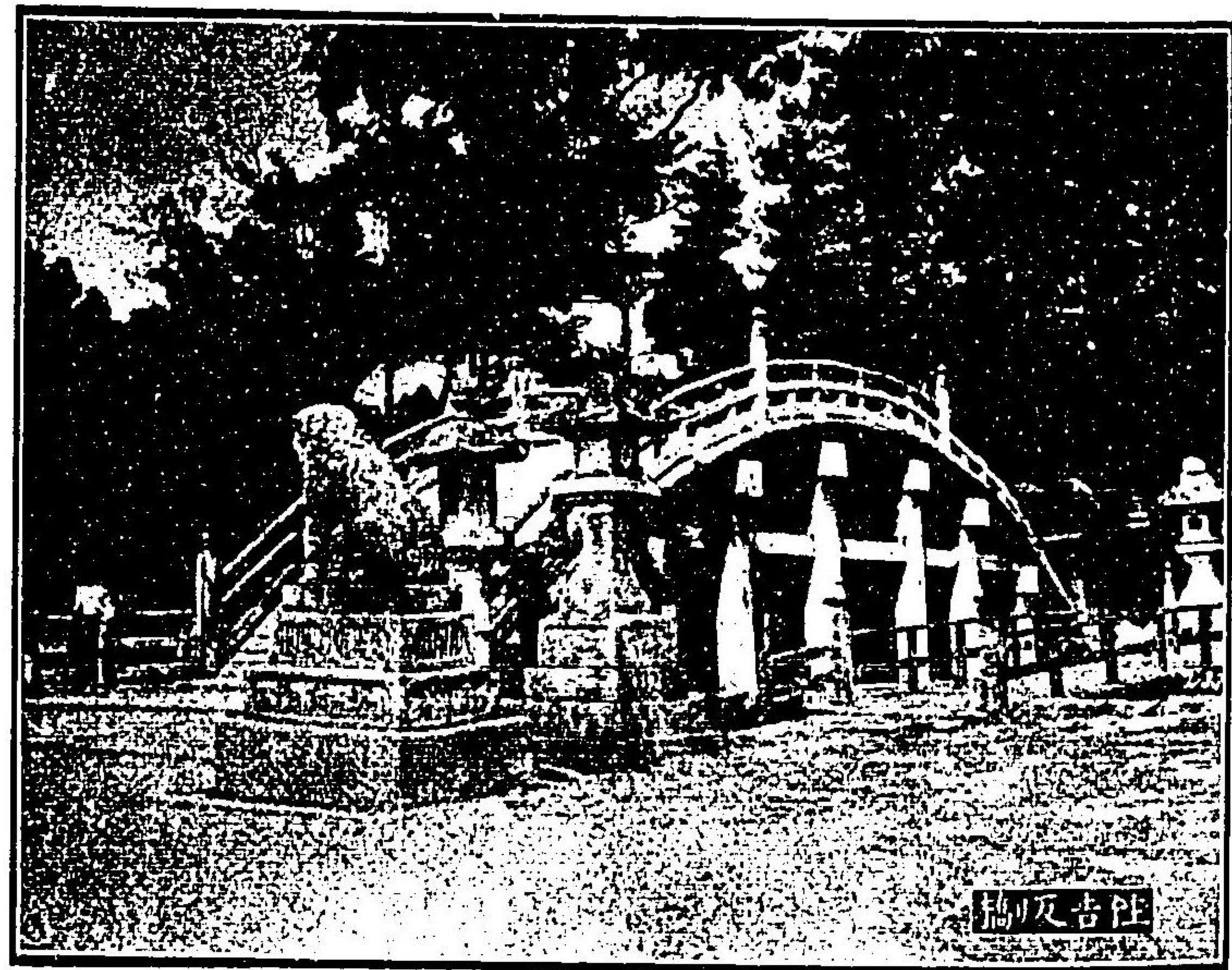


梅田停車場





住吉神社



住吉及橋

大阪名所案内序

難波津に咲くや此花冬籠り。今を春べと咲くや此花の彌生  
の比より。京都に開化の花かざり。博覧會見の序ながら。平安  
城の昔より。尙また古き高津の宮。神武東征御着船在らせ給  
ひし。浪速津に。ありとあらふる名所舊跡。巡覽給とん其が便  
りにもと。停車場より踏出して。選りて餘る御暇あらば。伊丹  
池田や有馬能勢。箕面勝尾寺ろれぐも。因にまゐるし。一卷の  
斯く小冊子とは爲せしになむ。

明治廿八年四月

編者識

凡例

一 此書の梅田停車場より東へ巡り南へ行きて東邊市外を  
 巡り住吉塚を経て南區に歸り東區に入り南區に戻り西  
 區に入り北區に還り一先梅田に歸りて更に郡部に行き  
 復梅田に歸ること、せり是れ市中附近巡覽のみにも或  
 は郡部巡りにも何れにも都合よくせしなり  
 一 順序は斯く定められたれど逆に巡るも中程より巡るも亦自  
 由のなるやう順序を正せり讀者請ふ實地に就きて便宜  
 にし給へ

大阪名所獨案内目錄

◎ 總 說

梅田停車場  
 九階凌雲閣  
 鬼子母神堂  
 綱敷天満宮  
 桂木山大融寺  
 兎餓野  
 寒山寺

一	夕日神明宮	九
四	堀川戎神社	一〇
五	露天神	一〇
六	北の新地	一〇
六	波邊橋	一一
六	堂島	一一
八	堂島米市場	一一
九	大坂控訴院、地方裁判所	一二

淀屋橋	二二	興正寺別院	一六
中の島公園地	一三	天満橋	一六
豊國神社	一三	造幣局	一七
難波橋	一三	鶴滿寺	一七
天神橋	一四	樋口	一八
天満菜蔬市場	一四	源八渡	一八
大江橋の舊趾	一五	櫻の宮	一八
天満天神社	一五	網島	一八
西山宗因の墓	一六	京橋	一九
佛照寺	一六	大坂城	一九

杉山	二二	仁徳天皇々居趾(桃やま)	二三
森宮	二二	舍利寺	二四
玉造	二二	四天王寺	二四
玉造清水	二三	茶臼山	二五
豊津稻生社(即ち玉造稻荷)	二三	一心寺	二五
玉造川	二三	安井天神	二六
僧契沖の遺跡	二三	新清水寺	二六
嶺山稻荷祠(即ち真田山)	二三	勝曼院	二七
猪飼野鶴橋	二三	合邦が辻	二七
小橋里(うぶゆ)	二三	安倍野	二七

住吉神社  
墨之江  
住吉浦  
霞松原  
關帝堂  
吾彦山大聖寺  
大和橋  
堺市  
高須稻荷社  
經王寺

二七  
二九  
二九  
二九  
三〇  
三〇  
三〇  
三一  
三一  
三一

神明の社  
西本願寺別院  
寶珠院  
妙國寺  
菅原社  
東本願寺別院  
開口神社  
宿院  
乳守の遊廓  
南宗寺

三二  
三二  
三二  
三二  
三三  
三三  
三三  
三四  
三四  
三四

大濱公園地  
新家町  
天下茶屋  
名吳濱(長町)  
商業俱樂部  
今宮社  
廣田社  
木津  
十三間川  
難波八坂神社

三五  
三六  
三六  
三七  
三七  
三八  
三八  
三九  
三九  
四〇

難波清水  
瑞龍禪寺  
難波市場  
叶橋  
難波停車場  
演舞場  
大藏省米廩  
毘沙門堂  
五階  
パノラマ館

四〇  
四〇  
四一  
四一  
四二  
四二  
四二  
四二  
四三  
四三

新金毘羅社  
千日前  
榎木神社  
自安寺  
坂町天満宮  
法善寺  
五花街  
淡町停車場  
道頓堀  
戎橋

四三  
四四  
四五  
四五  
四六  
四六  
四七  
五〇

日本橋  
二ツ井  
生玉神社  
北向八幡宮  
寺町  
上小竹葉野  
高津神社  
吉助  
松屋町筋  
空堀

五〇  
五一  
五一  
五三  
五三  
五四  
五四  
五五  
五五  
五五

朝日神宮  
寶泉寺  
大坂博物館  
照日神明宮  
天野屋利兵衛の宅址  
高田専修寺懸所  
鐘町  
八軒家  
樓屋敷(高麗橋)  
築地

五六  
五六  
五七  
五七  
五七  
五八  
五八  
五八  
五九  
五九

北濱  
株式取引所  
日本銀行支店  
今橋通  
伏見町  
道修町(藥商舖)  
佛光寺懸所  
御靈社  
津村御堂  
鳥屋町

五九  
六〇  
六〇  
六〇  
六一  
六一  
六一  
六一  
六二  
六三

梅檀木	唐物町	難波御堂	坐摩神社	芭蕉翁終焉地	鯛屋貞柳宅址	南久寶寺町(小間物舖)	上難波神社	順慶町	油懸地藏
六三	六三	六四	六四	六五	六六	六六	六六	六七	六七
井池	心齋橋	難屋町	住友邸	瓦屋橋	三津寺	三津八幡宮	松屋吳服店	石濱	四ッ橋
六八	六八	六八	六九	六九	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇

新町橋	瀬戸物町	筋違橋	玉井	青年會會堂	京町堀通り	新鞆	永代濱	解舟町	廣教寺
七一	七一	七一	七二	七二	七二	七二	七三	七三	七三
新町	鯉坐	西長堀材木市	堀江市の側	堀江の遊里	蓮池山和光寺(阿彌陀池)	土佐の稻荷社	府會議事堂	電燈會社	論伽神社
七四	七五	七五	七五	七六	七六	七七	七八	七八	七八

橋通り(道具舗)  
 赤手拭稻荷社  
 西濱町  
 千本松  
 三軒屋紡績所  
 尻無川口  
 天保山  
 安治川  
 潮見櫻  
 水咫衝石

七九  
七九  
七九  
七九  
七九  
八〇  
八一  
八一  
八一

蛭子松  
 衛壞島  
 竹林寺  
 茨住吉社  
 九島禪院  
 寺島  
 松島遊廓  
 博勞洲の舊蹟  
 松島橋  
 富島

八一  
八一  
八一  
八二  
八二  
八三  
八三  
八三  
八三

川口波止場  
 外國人居留地  
 安治川橋  
 大坂府廳  
 雜喉場魚市  
 商品陳列所  
 福島天神祠  
 逆櫓松  
 鬼貫の舊蹟  
 野田の藤

八四  
八四  
八四  
八四  
八五  
八六  
八七  
八七  
八八  
八八

曾呂利菴  
 證如上人の舊蹟  
 妙徳寺  
 野田の城址  
 判官松  
 傳法  
 伊丹  
 猪名川  
 池田

八八  
八九  
八九  
九〇  
九〇  
九〇  
九一  
九一  
九一



唐船淵	九一	久安寺	九三
染殿井	九二	中山寺	九四
絹繫松	九二	有馬の温泉	九四
織殿舊址	九二	温泉神社	九七
梅室姫室の舊址	九二	温泉寺	九七
荒木村重の墓	九二	鼓ヶ瀧	九八
有岡古城	九二	有明櫻	九八
兼好の松	九三	蜘蛛瀧	九八
安倍晴明の墓	九三	白石瀧	九八
萱野三平の墓	九三	鳥地獄	九九

有馬富士	九九	總持寺	一〇三
善福寺	九九	本照寺	一〇四
高代寺	一〇〇	慶瑞禪寺	一〇四
能勢妙見祠	一〇〇	三島江	一〇五
鬼王團三郎の塔	一〇一	玉川	一〇五
誓我祠	一〇一	能因法師の墳	一〇五
月峯寺	一〇一	旗立峠	一〇五
箕面山瀧安寺	一〇二	櫻井驛	一〇五
箕面瀧	一〇二	阪口八幡祠	一〇六
勝尾寺	一〇三	寶城巷	一〇六

待宵小侍従の墓	一〇六
水無瀬宮	一〇六
水無瀬瀧	一〇七
西観音寺	一〇七
江口	一〇八
崇禎寺馬場	一〇八
鷺塚	一〇九
源光寺	一〇九

大阪名所獨案内目錄終

大坂名所獨案内

秋野散史編

◎總説

大坂の地の古きことは我邦三府中、他の二府の及ぶ所にあらず土地の古き自慢を爲れば三郷市中に冠絶せり其近接の堺にても東京よりは古し偕て大坂と云へる地名の起りを原ぬるに大江坂と云ひし略語にて大江の號の起りしは仁徳天皇の御宇なり天皇の皇子を大江伊邪本和氣命(即ち履中天皇)と申せしより起りしなり大江坂といふは今の大阪城の西にあり、當時谷町通より西は海にて八軒家の邊り、入江の口なり此八軒家といふは天満橋の南詰邊りを云ひ其邊りを大江岸、大江岸より

南の方谷町通を海岸として此邊りの一帯を大江浦と云ひしなり又大江浦より南の方、今の住吉に至る間に御津濱、御津浦、御津泊等あり、猶は是より遡りて國初に至れば難波津と云ひ、津國の浪速とも云ひたり此浪速は 神武天皇日向より軍を起して東征し給ひ上陸あらせられし地なり浪速を又浪華とも書く、此海邊は潮流の勢にて海水岸に衝當り跳れる浪の華とも見ゆるより浪華とし其潮流の急あるより浪速と名け又波暴く難多きより難波と云ひしとぞ又津といふの船の集ふ意にて港といふが如し此國船の集ふこと多き故に津國といひたるを奈良の都の頃 悉く國名を二字名とせられ攝の一字を加へて攝津とは爲り、されば御津と云へるは即ち宇佐八幡宮石清水へ遷らせらるゝ時其御靈代

の御船を着けさせられし津と云ふことなり御津寺、御津八幡宮は之が古跡なり、斯る地なりし故に船場は港内の船の泊りし處、島の内は僅かに島形の洲のありし地なりしなり然るも後世其港内遠淺と爲り埋まりて今之如く爲りたり夫より後之 仁徳天皇都し給ひ、尙は又後は大伴氏代々此地を領し天正以前之今の大阪城の地石山本願寺御堂ありしを天正 年中顯如上 人此を退去し豊太閤城を築き此地に覇府を開きしより大に繁盛の地と爲り豊臣氏亡ぶれども土地は海内東西の要衝に當り物貨日に入出し今の如く繁華の都會と爲りしなり堺も亦中古より有名の港にて古跡多し何れも其箇所々に就て來歴由緒等を説くべし偕て又大阪市は現時東西南北の四區に分つ之に接續する郡は東に東

成郡あり南西北に西成郡あり市の東西之凡一里餘、商北は三十余町あり又町數の四區を合して五百十八あり全體の戸數は九万三千五百五十四、人口は四十八万五千三百三十一あり橋梁の數多きは他の二府に見ざる所にして總數殆ど二百あり先づ左に記す、梅田停車場にて北部より東部、東部より南部即ち住吉界にも至り北に還りて西部より行き一先は梅田に歸りて他の津國名所に移るべし

梅田停車場 曾根崎村に在り東は西京を経て東京新橋に至り西は神戸を経て廣島に達する鐵道線路中の一大停車場なり故に其建築は巍々たる石館にして壯麗なる高層館なり構内は殊に廣く館の前なる園中には種々の草木を植る周りには鐵柵を設け西邊には入堀あり堂島川

より貨物出入運搬の便あり又場内には中央に電燈を立つ實に晦日の闇も知らざるなり東には大阪郵便爲替貯金管理支所あり其南には驛長の官舎あり南には内國通運會社の支店あり西には日本郵船會社の支店及び倉庫數棟あり又此地は秋の夜千草にすたく虫の音を聞かん

とて節を曳く者多しとぞ

九階凌雲閣 西成郡下三番に在り、所謂九階の高臺にして凌雲の名に背かず雲を凌ぎて屹立せり故に大阪市中は申すに及ばず一圓に四方の山河村落を見晴そを得べし名所を巡らんとするものは先づ下瞰し遠望し豫め位置を此に取るべし當村には有名の遊園ありて割烹の業を兼ぬる者多し紙久、車茶屋、小林遊園地等あり

鬼子母神堂 下三番の東方、濱村に在り、靈驗ありとて賽する者常に

絶えず

綱敷天満宮 下三番の東南北野に在り故は北野天神とも云ふ、昌泰年

中管公筑紫に左遷の時綱を敷きて其上に坐し此邊りの風景を觀覽せ

られし地と云ふ

桂木山大融寺 綱敷天満宮の南に當る、北野にあり古義眞言宗にして

高野の四善庵に屬す、本尊千手觀音脇土地藏菩薩毘沙門天は弘法大

師の作なり境内には護摩堂、愛染堂、釋迦堂、巡禮觀音堂、鎮守

等あり又本堂の東に辨天池あり、當寺は難波と稱せし頃よりの古寺

にして弘法大師の開基なり弘仁年中大師此地に來る時松柏深く生茂

り木下闇の暗き處に靈光赫々として異香芳しき靈樹あり即ち大師は

之を伐て自ら地藏毘沙門の二軀を刻み佛院を草創す、其頃 嵯峨天

皇之を敎感ありて大悲の尊容を寄附し則ち之を本尊とし、同帝の皇

子源融 公六條なる河原院を建て陸奥千賀浦の盤龍を摸し難波の御

津浦より日毎に潮を汲ませ遊ばれしが其頃此地に遊歴し仁海上人に

遺命して佛院を建立し、夫の靈樹の地なるを以て桂木山と號し融公

の諱を用ゐ之に大の字を冠らせて大融寺と稱す又弘法大師は眞言の

靈場とし殿堂莊嚴を極めたりしが星移り物換りて逆亂の爲に諸堂荒

廢し其大門の趾は今の境内より西北の方三町に在り今其字のみ存る

其他寶塔樓閣の蹟は皆田園の宇に在り浴室の跡は今風呂小路とて耕

作地となりたり然るに後世快濟上人來りて今の如く再興し昔に復りて春は堂前の藤波麗しく咲乱れ養者の眺となりて賑へり又當寺には種々の什寶ありと云ふ

東餓野 北野より天滿に亘りたる一帶の野なり今此邊りを床の尾といふは兎餓野の訛なるべしと云ふ兎餓野の鹿とて古は此邊りに鹿多かりしなり日本紀に曰へることあり 仁徳天皇八田皇后と高臺に登り給ひ秋の夜残る暑を避けて鹿の聲を愛し樂み給ふに猪名縣の佐伯部といふ者日夜狩して猪名野より大江岸の向ひなる兎餓野に來り一つの鹿を射殺し帝に奉る其夜より曾て鹿鳴かざりければ帝愛し給ひし鳴鹿を獲りしと見ゆたり之によりて帝大に根み思しめすあれ

は有司うけたまはりて佐伯部を藝國淳田に左遷すと、是れにて名ある野なり

寒山寺 北野に在り大融寺の西南に當る、當寺に有名の鐘あり

夕日神明宮、西天滿老松町の北にあり祭神は天照大神なり社記に云ふ昔し左大臣融公難波津遊歴の時此に勸請す、其後文治年中渡邊福島に於て源義經梶原景時と逆艦の論ありし時、義經より當宮へ願書を收む其他寄附物等今に在り又 後醍醐天皇嘉曆年中に當宮を勅願所とし行幸ありしことあり其頃は社頭も巍々たりしに足利尊氏兵亂の時、荒蕪し今僅に遺れるなり世俗に上町(骨屋町)に在るを朝日神明宮と号し内平野町に在るを照日神明宮と号し當社を夕日神明宮

堀川戎神社 西天満にあり、西宮事代主神社の末社にして蛭子命を

中央とし少彦名命、太玉命を祭る

露天神 於初天神とも云ふ、夕日神明宮の西曾根崎村にあり故に又曾

根崎天神とも稱す、祭神は菅公なり、傳へ云ふ昔し菅公筑紫へ謫遷

の時福島に船泊りし給ひ大融寺に詣でんとて船頭茂太夫案内者と爲

り出来られしに道の邊り露いと深くありければ菅公は

露と散る涙に袖と朽にけり都のことを思ひいつれば

斯くなむ詠じ給へり是より露の天神と云へりとぞ

北新地 曾根崎新地とも云ふ、今は市内に在れども舊と曾根崎村の分

地あり此地は遊里にして櫻橋北詰に劇場あり福井座といふ櫻橋は橋

田停車場への往還に架れり

渡邊橋 櫻橋の南方堂島川に架れり、鐵橋にして美麗なり其南方、土

佐堀川に肥後橋あり是れ亦鐵橋にして美なり此兩橋間の東側一帯兩

角を曲りて一大建築物の宏壯なるものあり是れ大坂郵便電信局なり

其西側にて渡邊橋の南岸に當り角引廻せる旅館あり貴顯紳士の投

宿する高等旅館花屋是なり

堂島 西天満以西、堂島橋に至る一帯を云ふ此地堂島といふ所以は其

昔守屋大臣佛法の渡來を惡み聖徳太子の建てんとし給ひし河内に在

りたる堂塔用の木材等を流せしに其堂材は此地に流れ寄りたり、故

此地を堂島といふとぞ

堂島米市場 渡邊橋北詰より其東なる大江橋北詰の間にあり此市場は

舊と淀屋橋北詰の豪商淀屋巨菴の宅前に在りしを此より遷せしと云ふ

此市場は従前米雜穀の賣買を爲し所謂相場を建てし地なるが今は米

一すぢの定期賣買所と爲れり淀屋橋北詰にて淀屋が市場を初めしは

天正年中なりしなり

大坂控訴院、地方裁判所 天満衣笠町と若松町とに跨りあり前面は堂

島川に臨みて大江橋北詰の東に在り構造巍々として人目を驚かす

淀屋橋 大江橋の南、土佐堀川に架れり、此橋は淀屋巨菴始めて之を

架ると云ふ、巨菴は天正年中の人にて豊太閤の旗下へ多くの軍糧を

運送すること年久しかりければ其恩賞として名畫の雞を賜へりとぞ

此橋南詰には煙草入屋多し有名なる淀屋橋煙草入は此にて販ぐ也

中の島公園地 中の島の東端に在り園中種々の樹木花卉を植ゑ両側は

川に臨み遠く東に金城を望む誠に絶景の地なり園中に明治紀念標あり

り即ち薩肥の賊徒討伐の役、忠死せし人々の紀念碑あり又名家の建

碑多し

豊國神社 公園内の東部に在り別格官幣社にして豊臣太閤を祭る、神

樂殿、神庫、末社、能舞臺等あり、神社の東には難波橋に至るの間

に銀水樓、自由亭、大阪ホテル等の割烹舗、旅館等あり

難波橋 豊國神社の東、中の島の東端より南北二橋と爲りて架れり即



ち南橋は土佐堀川に架り、北橋は堂島川に架れり、橋上は東の方淀川を見下し遙に天神天満の両橋及び大阪城を望み風色實に絶佳なり殊に夏月は橋上河中共に納涼に宜しく河中遊船の集ふは是より天神橋に至るの間なり此橋舊は淀川に架れる一橋なりしが明治の初年中の島を築出し斯く二ツの橋と爲せしなり

天神橋 難波橋の東に架れり、鐵橋にして奇巧を極めたり其欄一たびは方、一たびは圓にして其形頗る奇なり長さは百三十余間、巾六間ありて高さは二丈七尺あり

天満菜蔬市場 天神橋北詰より東の方龍田町まで濱側通三町許りの間なり又北詰より西を市の側といひて乾物問屋軒を並ぶ又蔬菜市場の

北手裏町に鮮魚、乾物、菓子の小市場あり偕て此菜蔬市場は往古は京橋南詰に年久しく在りしが慶安の頃其地は官の御用地と爲りて京橋片原町に引移りせり、されど此地と商人の往來に煩ひありとて替地を免許あり更に再び今の所へ引移りたるなり

大江橋の舊趾 大江橋は今堂島川に架れど此橋は舊大江橋の名を繼ぎたるあり舊と大江橋は天神天満兩橋の間に架れり其頃と淀川を一名近江川と云ひ川幅二百六十間餘ありしとぞ

天満天神社 菜蔬市場の北、天神筋町にあり社格は府社あり舊と今の大工町なる明星池の邊りに鎮坐ありしを此處に遷宮せしと云ふ、祭神は菅原道實公なり境内には攝社、末社多く諸興行物料屋等あり

りて賑はし、此祭禮は大坂第一の賑ひなること船渡御の觀物あるに  
世人の知る所なり

西山宗因の墓 天満西寺町西福寺に在り延寶の頃の人にして檀林風の

俳諧を以て世に鳴り又畫をも善くせし人なり

佛照寺 天満天神社の東に在り難波御堂と号す、東本願寺の掛所あり

興正寺別院 天満七町目筋に在り、京都興正寺の掛所なり

天満橋 天神橋の東に架れる橋なり、是れ亦鐵橋にして橋欄總て方形

に造る長さ百二十間、巾六間ありて高さは二丈あり、橋の央に東の

方備前島、網島へ出る道あり、此橋と舊と今の如く谷町通より架りた

るにあらす是より一町東にありたり、其舊架橋地の往古渡邊橋の在

りし地なり今の堂島なる渡邊橋と猶は大江橋の如く處を異にして其  
名を繼ぎたるなり

造幣局 天満橋北詰より東へ二町の川崎村に在り、前は淀川に臨み對

岸より望めば頗る好風景を爲す構内廣くして敷町に亘り館舎製造所

多く建ち列り煙筒高く天を衝き黒煙吐きて雲烟に交はる若し觀覽を

許されなば目を驚とべき機關器械を見る誠に壯觀美麗の建築なり

鶴滿寺 造幣局の北、長柄村に在り、山号を雲松山と号す、天台律二

宗兼學にして又慈祥院とも号す、本尊は阿彌陀佛なり境内の梵鐘及

び叅樓は高く、寺内寂びて人跡稀なり、されど垂絲櫻ありて花の頃

に集ふて之を觀る

樋口 鶴満寺の南に在り、河岸堤上に櫻樹多し皆老樹なり、名にしお  
ふ淀川に沿へるを以て花又景に富む、之が爲め花時には樋口の花見  
とて雅俗の群集する勝地なり

源八渡 西成郡源八町に在り、樋口より東南に當る、即ち淀川の西

渡口なり此渡を東へ越せば櫻宮に出るなり

櫻の宮 東成郡中野村に在り、村社にして天照皇大神を祭る社頭及び

堤上にと一重櫻、八重櫻、薄花櫻、緋櫻、江戸櫻、姥櫻等の樹々多

く花時の賑ひ一方ならず其様東京向島にも髣髴たり此地と花時而

已ならず四時の眺にも富みたり

網島 櫻宮の西に在り、東京の橋場今戸の如く諸家の別荘多き地に

て大長寺といふ有名の寺あり、又鮒宇とて世に聞ゆる割烹舖あり

宴席川に臨みて風景に富めり

京橋 網島より西、故大和川と猫間川と會流する所に在り、水は橋下

より淀川に入る、南に大坂城ありて舊時は京橋口とて登城の用橋な

りしなり欄干なる擬寶珠の銘に元和元年造立と鐫す東北は片原町の

相生町にて京街道の口なり北の橋詰に每朝川魚の市あり

大坂城 京橋の東南に在り此地往古は石山と云ひ又町名を法圓坂町と

いふ東本願寺法主蓮如上人始めて此に坊舎を建つ顯如上人に至て

織田信長公と戦ひしに其戦決せず遂に信長公の願に依て和陸し朝

廷よりの勅命にて顯如上人は紀州に退き天正十二年に至りて豊臣秀

吉此に城を築きたり、偕て今の城郭と管た牙城のみにて城郭の全體にあらす大坂陣の比には三重に濠ありて北なる外濠は淀川、西なる外濠は東堀にて東の外濠の北部は猫間川あり、其川ならぬものは皆徳川氏より埋められしなり是等の地は總て往古は生玉庄といへり豊臣氏滅亡の後徳川氏より城代を置き之を守りしに戊辰の役之を棄てて走り官軍の有と爲り明治の代と更まり今は第四師團の司令部、経理部等を城内に置り、城邊よは偕行社、陸軍病院、砲兵、歩兵、輜重兵、騎兵の諸營及び砲兵工廠を置かれたり、右偕行社より輜重兵營までは城の西部に列り騎兵營と眞田山に在り砲兵工廠と鳴野口に在るなり

杉山 城の東に在り此地風景よきを以て春暖の頃には貴賤此に集ふ  
 森宮 玉造 宇森村に在り一に鶴森と云ふ、日本紀に 推古天皇六年夏四月 鶴二喉を社に養はしむと曰へり即ち此地なり又明應の頃此邊に本願寺御堂あり顯如上人信長公と和陸の後紀州雜賀に退去す然れども舊名を呼で紀州に於ても之を略呼して鶴森と云ふ（今は鶴森と書す）  
 玉造 大阪城より生玉神社邊り迄の總名なり、之を一に生玉庄と云ふ今玉造といふものは斯く廣からず、此名の起る其原を索ぬるに生玉神社の祭神天生國魂神の出現し給ひしを以て此に社を造りし故斯く玉造と号せしとぞ、されば玉造は魂造の意なりと知るべし

玉造清水 玉造町字下清水に在り、昔此地に遊里あり九軒茶屋、

伏見坂町ありたり、是れ新町九軒、南地坂町の舊地なりと云ふ

豊津稻生社 玉造稻荷町に在り、郷社にして祭神は蒼稻魂神なり金城

の鎮守と稱す勸請の年歴久遠にして詳に知ることなし、天正年

中兵火に罹りて焼亡す豊臣秀頼公之を再興す

玉造川 今の猫間川の事にて古歌の名所なり猫間川と呼ぶは生駒川の

訛なりと云へり

僧契沖の遺跡 東高津餌刺町に在り圓珠菴とて契沖阿闍梨の寂せし處

なり契沖阿闍梨は和學の大家あり

嶺山稻荷祠 玉造町の南に在り世に眞田山と云ふ元和の眞田の壘と

しに在り因て斯く名づくこと又此丘を宰相山といふ加賀宰相侯の陣

屋ありし故なり偕て神社は稻荷祠といへど本社祭神は 仁徳天皇に

て稻荷社の本社に在り

猪飼野鶴橋 小橋の東百濟川に架す、實は猪甘津橋なり古歌の名所と

云ふ、百濟川も亦古歌の名所あり

小橋里 小橋村に在り、大小橋命の館舎の地なり産湯清水といふは此

命の産湯の清水なりと云へり、今此に産湯の稻荷祠あり

仁徳天皇皇居趾 今の高津神社の地は仮設にて眞の皇居趾は東高津村

の難波寺といひ又小橋寺町の西の方今の桃山の地とも云ふ孰れか是

なるを詳かにせざれども此地を土地人御殿谷と云ふ、桃山の地は

桃樹多くして林を爲す、開花の時は觀客四方より集ふ

舍利寺 舍利寺村に在り、山号を南岳山といふ禪宗黃檗派にて善光寺

如來のうつしあり

四天王寺 東成郡天王寺村に在り、山号を荒陵山と云ふ、七堂伽藍

の巨刹にして八宗兼學なり而して此寺開基建立と共に聖德太子にて

夫の河内に於て物部守屋に打ち克ち給ひし後ち建立せられたり當時

未だ完全なる伽藍あらず此備はりたる寺院始めて立ちたるを以て世

に佛法最初の寺院といふ、さて此寺院初は玉造の岸に建てたるを海

波來りて岸を壞し惡禽來りて佛閣を啄み損ず因て五年の後ち 推古

天皇の元年に至て今の茶白山の東に移す即ち七堂伽藍の巨刹にして

東西之八町、南北は六町あり西面に石造の大鳥居あり此額是小野  
道風の自筆にて西大門有地内に五重の塔あり又引聲堂、短聲堂、喫  
茶所、納骨所、金堂、太子堂等其他築造物多し且つ境内公園地なる  
を以て常に遊人絶えず就中春秋 兩度の彼岸には一層群集して賑へ  
り

茶白山 四天王寺の西南に在り茶白山といふは形を以て異名とするも

のにて本号と荒陵なり、此地は慶長元和の頃徳川家康公の陣營と

爲りたり荒陵といふは 仁徳天皇の御宇より前の号なり又此地に

雲水とて僧侶の精進料理を販ぐ寺院あり

一心寺 茶白山の北に在り、山号を坂松山といひ高岳院と号す宗旨は

浄土宗鐵匠派よして知恩院に屬し圓光大師廿五ヶ所の舊蹟の一なり  
 本尊阿彌陀佛は印度の良工昆首羯摩の作にて三尺の立像なり境内に  
 は二階堂、三千佛堂、御影堂、大師廟所、駒繫松等あり駒繫松は家  
 康公の乗馬を繫ぎたる松なり又本多忠勝の墓あり  
 安井天神 相坂の上在り祭神は少彦名命なり今之を天満宮といふ  
 は菅公筑紫へ左遷の時、暫し此に安らひ給ひしより斯くは誤りし  
 り之に依て安居と書くは尙々誤りなり本社西に舞臺あり眺望佳し  
 新湍水寺 安井天神の北に在り、山号を有栖山とす本尊は十一面觀世  
 音にて聖德太子の御作なり此にも亦舞臺あり眺望よし又音羽瀧とて  
 三條の瀧あり其上には不動明王を安置す

勝曼院 四天王寺西門の西北に在り愛染明王を安置す其後に夕陽山ありて家隆卿の墳あり

合邦が辻 相坂の西に在り船屋王を安置す此地名詠曲等に出で、其名高し

安倍野 又阿部野と書す四天王寺の南大門より住吉に至る道にあり此地は平治の乱に清盛熊野より還り變を開きたる所にして又南北朝の時、北畠顯家卿の戦死せられし所にして其墓あり依て此に顯家卿を祭る、別格官幣社にて安倍野神社と号す、其東に埋葬地あり

住吉神社 安部野の南、住吉郡に在り、官幣大社にして祭神は四社の明神と號し四柱の神なり即ち第一神殿には底筒男命、第二神殿には

中筒男命、第三神殿には表筒男命、第四神殿には神功皇后を祭る、  
 此第三殿迄の神は九神一神として三社孰れも天照大神とも爲り或は月  
 讀尊とも爲り或は素盞烏尊とも爲り至竟伊弉諾尊に歸するなり即  
 ち三々九神の伊弉諾尊一神に歸するを謂ふ、社殿の造營は住吉造と  
 て八陣の法を以て造る四の華表四方に建ち瑞籬は四維に圍り攝社末  
 社三千餘前あり新新の前の三百の社家ありたり此神は海神と崇め又  
 和歌の神と崇む其始め神代に起り人皇に速で第十代 崇神天皇の御  
 宇始めて當境に降臨し給ひ其后神功皇后に神託ありて此地に跡を垂  
 れ給ふ是より住吉の名露はると云ふ住吉を一に眞住吉と云ふ是れ伊  
 弉諾尊の白銅鏡より出でたり或は須美乃敷とも云ふ此神松樹を好ま

せ給ふを以て松樹多く、社殿は松林の中に在りて前面には獻燈の石  
 燈籠あり其數多くして數へ盡し難し三千の攝社末社は一々此小冊子  
 に記するを得ず其他著名なるもの一二を擧れば誕生石、依網池、依  
 羅井、御沓石、後村上天皇の行宮等あり神庫、神樂殿、神馬舎等  
 あるは無論にて記すを須たす反橋と高燈籠とは就中有名あり此他神  
 事等の事委しく記さば一卷を盡すも足らず依て畧之  
 墨之江 本社より一町許り東南に在り、今は埋れて田圃と爲り字を若  
 の中田と云ふ  
 住吉浦 總て當社の浦を云ふ、一名を津守の浦とも云へり  
 敷松原 住吉の南安立町を云ふ此町昔は皆松原なりしを後世安立とい



ふ者之を開きて町續きと爲せり、此安立町には難波屋の笠松とて笠の地を覆へる如き巨松あり旅客靈松として賞嘆す

關帝堂 安立町龜林寺に在り昔し水戸黃門尊信せられし關羽の像にて心越和尚の明國より持渡りしものなり、水戸の祇園寺に在りしを此に遷せしと云ふ

吾彦山大聖寺 我孫子村に在り住吉神社より十八町東に當る、此寺又中坊不動院とも號す本尊は行基僧正の作聖觀音あり、厄除の觀音と崇め例年節分には賽者群集す

大和橋 安立町の南にて新大和川に架れり、橋の長さ二百間あり堺の北の入口にて紀泉二州の往還なり

堺市 大和橋の南に在り古來有名の港ありしが今は古の如く船舶集

はず然れども近年追々繁華に赴く即ち大坂府下の一市として戸數壹萬余、人口四万六千九百人此地は大内氏此に據りたることあり千

の利休、小西行長なぞ出でたる地にて兒童も能く此市あるを知る

高須稻荷社 大和橋より南の方にて橋を渡りて少し左へ入りたる處に在り境内櫻樹多く風景殊に佳し此邊りに高須の廓ありたり昔は名高き遊廓にて地獄太夫の在りし地なり即ち今の北旅籠町櫻の町東二町の地は其遺趾なり

經王寺 九間の町東一町にあり日蓮宗にして應永年中の建立なり寺内に芭蕉翁の句碑あり

神明の社 神明町にあり、天武天皇の御宇白鳳年中に勸請せしものにて祭神は外宮内宮の兩大神宮なり

西本願寺別院 神明社より東二町に在り堂舎の結構莊嚴なり

寶珠院 宿屋町の東三町許に在り明治の初年高知藩士の佛國人を斬

りたる者罪に坐して屠服せしが其屠服者十一名の墓あり此墓ありて

より後ち賽者多く日々其墓には香華絶ゆることなし

妙國寺 材木町東三町にありて寶珠院の南側に當る、山号を廣普山

といひて日蓮宗なり三好實休の建立にして日珖上人を閉基す堂

前に三重の塔あり方丈の前には有名なる蘇鉄あり高さ三間余あり

て四百年余の古樹なり

菅原社 戎の町に在り、當社は明曆三年の創建にして祭神は菅公自作

の日本七天神の一あり境内は方一町あり神殿は巍々として樓門に

對す世俗之を堺の天神と云ふ、境内には影向の梅、和泉式部の塔あり、

庭園池沼備りて四時の詠殊に佳し

東本願寺別院 菅原社の北門より東二町に在り堂宇の壯麗西本願寺別

院に劣らず

開口神社 甲斐町東一町に在り俗に大寺と云ふ當社に住吉神社の外宮

にして古は二十年毎に朝廷より社殿の修補を命せられしと云ふ祭

神は事勝食勝國長欲命にて生國魂神を合祀す大寺といへるは此地

大念佛寺の寺内なりし故あり境内廣くして櫻樹多く花時には夜櫻の

權しあり茶店等列り特に市の中央に當るを以て養者多く常に賑へり  
 宿院 宿院町東一町に在り住吉神社の御旅所あり近時は住吉の神渡  
 御の前日大鳥神社の渡御もあり依て二社を鎮坐す境内廣くして飯匙  
 の池あり此池は地神第四代彦火々出見尊の龍宮にて得給ひし千珠を  
 納じ境内境外頗る賑かにして卯日座といふ劇場の外寄席飲食店茶  
 店等あり青物市場勸商場其他露店多く市内第一熱鬧の地なり  
 乳守の遊廓 市の南端なる少林寺橋北詰一町東よ在り古來有名の遊  
 里なり

南宗寺 乳守遊廓の東にあり、宗旨は淨宗にて龍興山と号す弘治二年  
 三好元長の建立にして大林和尚の開基なり其後度々兵火に罹りたる

を元和の頃有名なる澤穂和尚の再建なり境内にて東照宮祠 無名の  
 墓、古田織部の考案に出でたる庭園、千利休の茶室趾一閑齋紹鷗の  
 墓、千利休以下代々の墓數基あり

大濱公園地 堺の海邊に在り南大濱北大濱の二處に分つ何れも海面に  
 向ひて眺望佳し南大濱には酒樓多く茅海樓最も大なり此處には魚市  
 あり例年七月三十一日には住吉神社の祭禮に因み徹夜の魚市あり、  
 さしもに廣き大濱も立錫の地なき程に賑ふと云ふ北大濱は海中へ突  
 出たる地先なり此にも酒樓多くあり舊曆三月節句の頃大汐とて海水  
 遠く退る數里の間干潟となるを以て蛤取とて老若の集ふは此邊り  
 なり

新家町 住吉神社表鳥居の西に在り右大濱まで塚名所の見物を爲し直ぐ大阪に歸るには大和橋に列びたる吾妻橋の停車場に來り汽車に乗りて大阪難波新地に還るなり、されど道筋なる名所舊跡を巡らんとせば復び安立町に還り、偕て此新家町に來るなり新家町には伊丹屋三文字屋とて有名の割烹舗ありしが今と亡し土地の名物錦魚、酢蛤、ごろく煎餅、唐がらし、麥葉細工あどと相變らず今に在り此地にも停車場あれど諸處見物とするには住吉街道を還るなり

天下茶屋 住吉街道新家町の北の驛なり此地を天下茶屋といふは豊臣秀吉公塚 政所へ往來の節、茶人紹鷗の茶亭に休息あり風景を賞せられし故斯く号けしと云へり秀吉公の休息地は紹鷗の森とて天満宮

の社頭に在り又此地は豊臣氏の時林源次郎仇を討ちしより其名高し名吳濱 道頓堀日本橋より南、今宮木津難波等の諸村の總名なりとぞ此地は其むかし 應神天皇の御宇支那國吳の人吳 織 漢織此處に着せり其頃此地は濱邊なりしなり故に斯く名吳濱と云ふ、さればにや維新の前には今宮村より鮮魚を禁裏へ 貢りたり是れ古へ海邊なりし遺風なり又維新の前日本橋南詰より今宮に至るまでの町を長町筋と云ひたり是れ名吳町の 誤なりと云へり

商業俱樂部 名吳町の南端にて合邦が辻の通りを西へ入りたる所に在り此俱樂部は明治二十一年より二十二年に跨りて營築したり構内は六千餘坪も在り表面には石柱の鉄門を建て内には五階の西洋館あり

其傍に四棟の商品陳列室あり、又別に一棟商品を陳列して販賣をする室あり又御殿作りの立派なる館あり是等を巡りて泉水築山瀧等あり花卉樹木多く頗る華麗の庭園あり機械室あり傳話機蘇音器なども備はり又茶店、料理店、温泉場等もあり遊観するに最も佳き地なり即ち名稱に背かず商業を研究し兼て遊観を爲る地なり

今宮社 商業倶楽部の西、今宮村に在り當社平日は賽者多からざれども一月十日には其前日より十日戎とて賑ふことは世の知る所なり當社祭神之中央天照大神、左姪子尊大日貴命、右素盞鳥尊月讀尊己上五坐なり

廣田社 今宮社の北に在り、祭神は天照大神の荒魂にして攝社に祇園

社稻荷祠あり

木津 今宮の西に在り、此地を木津と号けし故を原ぬるに其昔し四天王寺伽藍建立の時其材木の着したる津より即ち用材の揚場なりし故に斯く号けしと云ふ又此地に蝸川といふ川あり小さき川なれども名あり是れ材木の着したる時蝸多く出でたり其蝸を逐ひて堀りたる川と言ひ傳へり

十三間川 木津の西にあり小さき川なれども由緒ある川なり此川は元祿年中に堀りたる川なれども其れより昔し此邊りに小河内川といふ川あり同じ川筋なりしやも計れず其川は攝津大夫和氣朝臣清磨勅を受けて堀りたること續日本記に見ゆたり

難波八坂神社 難波村に在り、舊と牛頭天王社と云ひたり祭神は京都の八坂神社と同じ社格は郷社なり

難波清水 難波村田圃の中に在り一名を芦柳清水といふ源泉にして甘味あり

瑞龍禪寺 難波村北端に在り、山号を慈雲山と云ふ禪宗黄檗派なり開基は鉄眼和尚なるを以て俗に之を鉄眼寺と云ふ佛殿は薬師佛にして十二神將を安じ天王殿には中央彌勒佛、左右四天王、後堂は違駄天を安じ此他禪堂、祠堂、鎮守、禪悦堂あり當寺は其初薬師寺と云ひて村支配の寺なりしが寛文十年和尚こゝに止住せしより瑞龍禪寺と寺号を更め其名廣く顯れたり斯く名の顯はるゝは他にあらす鉄眼和

尚は佛學に深く説法能辨にて俗間を化度すること多く高德の僧なりしが故なりとぞ、此難波村には世に有名のもの多し阿福茶屋とて席貸茶屋あり庭園廣く風景あるを以て行厨を携へ瓢酒を提げ此に遊ぶ者多く又伊吹堂とて接骨醫あり五貫屋とて酒搾糞を製する名家あり、皆其名高し

難波市場 難波村と木津との間なる鷗橋の北詰に在り、橋際にては魚市あり夫より北に蔬菜市あり早朝より商人集ひて賑はしく又其北に古着の露店多し  
叶橋 難波入堀に架る、小さき橋かれども難波村と南區難波新地との通路に在りて難沓す又此橋を土橋といひて其名高し

難波停車場 難波新地川橋通と戎橋筋と交はりたる角屋敷に在り其建築は赤瓦煉造にして壯麗なり此停車場は坂堺鐵道の大坂起点の停車場にて天下茶屋、新家の二驛を経て堺なる吾妻橋停車場に至るなり  
 演舞場 難波新地停車場の北、戎橋筋西側に在り、五花街藝妓の歌舞を演ずる所なり近頃此内にて共樂會といふ會を起し時々之を催す  
 市内の藝人又ハ東京等より來りし藝人各得意の藝を演ずるなり  
 大藏省米廩 難波停車場の南、戎橋筋の町外れに在り舊と御藏といひて徳川幕府の租税米を藏せし所なり倉庫の繞りに松の列樹ありて一の景色を成せり  
 毘沙門堂 米廩より東、名呉町裏に在り本尊毘沙門天は舞驗ありとて

樂するもの多し

五階 毘沙門堂の西に在り五階の高臺にして頂上に上れば四方の遠山を望み快晴には海面をも遠見するを得、北は市中一面に見晴すを得べし

パノラマ館 五階の北に在り凸鏡を以て大きく且つ眞景を見るが如く仕掛を爲して見する館あり、館は圓体に造りて高し、目今は日清戦争の眞景を觀せしむ

新金毘羅社 パノラマ館の北に在り祭神は金山彦命なり明治の初此に勸請す故に新金毘羅社と云ふ社前より千日前に通じて頗る賑へり

千日前 新金毘羅社の北に在り此地は舊と千日茶毘所の前面なりしなり故に斯くいふなり昔時は墓原よて其東側には刑場ありたり斯る寂しき地なりしに今は反して東京淺草の新開地、京都新京極通の如く市中第一熱鬧の地と爲れり此には種々の觀物又安芝居等あり觀物は舊と演舞場の北、溝の側西へ入りたる處にありたり而るを明治の初に至り此處に遷されたり此興行地は南北四町余に亘りて兩側に在り其種を擧ぐれば女芝居、安芝居、二わか、手品、輕業、足藝、女手踊、落語、擊劍、生人形、幻燈、電氣作用、犬芝居、猿芝居、鳥藝、不具者、珍禽、奇獸等を觀するなり此他揚弓場、射的場、球突場あり飲食店の數は枚擧するに遑あらず中に就て大なるものは井筒

なり

榎木神社 千日前の南部の東へ入りたる處に在り此社は原と茶毘所の傍なる榎の大樹を祭れるあり懸驗ありとて諸人賽する者絶えず  
 自安寺 千日前中部の東にあり本尊は妙見大士にして是れ亦懸驗あり  
 とて賽する者多し

坂町天満宮 千日前北部の二町東に在り菅公を祭る亦賽者多し  
 法善寺 千日前を北へ出外れたる西側に在り境内廣くして東西に通り抜くことを得、北は道頓堀南岸に出る小路あり菅寺は金刀比羅宮あるを以て名あり寺内には落語軍談等の寄席あり飲食店多く茶店も亦多し



二 五花街 五ヶ處の遊里を總稱したるなり即ち難波新地、坂町、橋町、  
 九郎右衛門町、宗右衛門町なり難波新地の中にも小別すれば中筋、  
 芝居裏、相生町と分るなり千日前又は法善寺より西の一帶を云ふ坂  
 町は坂町天満宮の北の通なり其北通りを芝居裏と云ひ其北ある道修  
 堀の南岸を橋町と云ひ、北岸の島の内に在るを宗右衛門町と云ひ橋  
 町の西、戎橋南詰より西なる河岸を九郎右衛門町と云ふなり  
 湊町停車場 九郎右衛門町の西、浪芳橋を渡りし處に在り是れ亦煉瓦  
 造にて建築壯麗なり此鉄道は天王寺、平野、八尾、柏原、難波、玉  
 寺、龍田、郡山、奈良に至り一は龜瀬より下田、高田、畝火、櫻井  
 に至る、天王寺停車場は阿部野と四天王寺との間にあり平野は有名

の地にて田村將軍の遺址、大坂陣の古戰場、融通大念佛宗の總本山  
 大源山諸佛護念院大念佛寺あり平野は住吉郡に屬す  
 道頓堀 東横堀より西の方木津川に入る一帯の堀川よて往昔安井道  
 といふ人之を堀りたるを以て斯く号けたり、さて此名の諸國に聞か  
 たるは五座の劇場あるを以てなり五座の劇場は東は日本橋の南詰よ  
 り西は戎橋の南詰に至るの間當今の東橋町、西橋町に列べり現今  
 は辨天座、朝日座、角座、中座、浪花座なれども舊は竹田、若太夫  
 角、中、筑後と云ひ筑後芝居を亦大西の芝居と云ひたり、倅て此芝  
 居の起原を索ぬるに機振芝居、戲棚芝居、歌舞伎芝居の三種ありて機  
 振芝居は竹田近江といふ人、寛文二年の頃此道頓堀に於て初めて許

可<sup>か</sup>を<sup>へ</sup>經<sup>へ</sup>て<sup>これ</sup>之<sup>を</sup>興<sup>こう</sup>行<sup>ぎやう</sup>したり此<sup>この</sup>機<sup>け</sup>換<sup>か</sup>の<sup>まへ</sup>前<sup>まへ</sup>藝<sup>ぎ</sup>には<sup>こ</sup>子<sup>ご</sup>供<sup>ども</sup>を<sup>い</sup>出<sup>だ</sup>して<sup>お</sup>戲<sup>げ</sup>狂<sup>きやう</sup>言<sup>げん</sup>を  
 始<sup>はじ</sup>めたる<sup>もの</sup>にて<sup>この</sup>此<sup>この</sup>芝<sup>しば</sup>居<sup>ゐ</sup>の<sup>ひやう</sup>評<sup>へい</sup>判<sup>はん</sup>世<sup>よ</sup>に<sup>たか</sup>高<sup>か</sup>く<sup>お</sup>大<sup>お</sup>坂<sup>さか</sup>に<sup>きた</sup>來<sup>き</sup>りて<sup>この</sup>此<sup>この</sup>芝<sup>しば</sup>居<sup>ゐ</sup>を<sup>み</sup>觀<sup>かん</sup>さ  
 れば<sup>お</sup>大<sup>お</sup>阪<sup>さか</sup>に<sup>きた</sup>來<sup>き</sup>りし<sup>しる</sup>驗<sup>げん</sup>なしと<sup>い</sup>ま<sup>で</sup>に<sup>い</sup>言<sup>い</sup>ひたりと<sup>ぞ</sup>、<sup>その</sup>其<sup>その</sup>頃<sup>ころ</sup>の<sup>は</sup>俚<sup>り</sup>語<sup>ご</sup>に『<sup>お</sup>大  
 阪<sup>お</sup>道<sup>だ</sup>領<sup>りやう</sup>堀<sup>ほり</sup>竹<sup>たけ</sup>田<sup>でん</sup>の<sup>しば</sup>芝<sup>しば</sup>居<sup>ゐ</sup>錢<sup>せん</sup>が<sup>や</sup>安<sup>やす</sup>すても<sup>お</sup>面<sup>おも</sup>白<sup>しろ</sup>い』<sup>か</sup>斯<sup>か</sup>く<sup>う</sup>謠<sup>うた</sup>ひたる<sup>を</sup>以<sup>もつ</sup>て<sup>その</sup>其<sup>その</sup>現<sup>げん</sup>  
 況<sup>きやう</sup>を<sup>し</sup>知<sup>し</sup>る<sup>べ</sup>し、<sup>また</sup>又<sup>また</sup>戲<sup>あそ</sup>棚<sup>つり</sup>芝<sup>しば</sup>居<sup>ゐ</sup>は<sup>たけ</sup>竹<sup>たけ</sup>本<sup>もと</sup>と<sup>お</sup>豊<sup>とよ</sup>竹<sup>たけ</sup>と<sup>りやう</sup>両<sup>りやう</sup>座<sup>ざ</sup>ありたり<sup>す</sup>即<sup>す</sup>ち<sup>お</sup>義<sup>ぎ</sup>太<sup>たい</sup>夫<sup>ふ</sup>  
 節<sup>せつ</sup>の<sup>じやう</sup>淨<sup>じやう</sup>瑠<sup>る</sup>璃<sup>り</sup>に<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>せて<sup>あ</sup>戲<sup>あそ</sup>棚<sup>つり</sup>人<sup>にん</sup>形<sup>ぎやう</sup>を<sup>つ</sup>遣<sup>つか</sup>ひたる<sup>なり</sup>、<sup>この</sup>此<sup>この</sup>義<sup>ぎ</sup>太<sup>たい</sup>夫<sup>ふ</sup>節<sup>せつ</sup>を<sup>はじ</sup>初<sup>はじ</sup>めし  
 者<sup>もの</sup>は<sup>てん</sup>天<sup>てん</sup>王<sup>わう</sup>寺<sup>じ</sup>村<sup>むら</sup>の<sup>ひやう</sup>農<sup>のう</sup>夫<sup>ふ</sup>にて<sup>ご</sup>五<sup>ご</sup>郎<sup>らう</sup>兵<sup>へい</sup>衛<sup>ゑ</sup>とい<sup>ふ</sup>者<sup>もの</sup>なり、<sup>てい</sup>貞<sup>てい</sup>享<sup>きやう</sup>年<sup>ねん</sup>中<sup>ちゆう</sup>の<sup>ひ</sup>人<sup>ひと</sup>に  
 て<sup>せい</sup>性<sup>せい</sup>質<sup>しつ</sup>淨<sup>じやう</sup>瑠<sup>る</sup>璃<sup>り</sup>を<sup>この</sup>好<sup>この</sup>み<sup>この</sup>此<sup>この</sup>義<sup>ぎ</sup>太<sup>たい</sup>夫<sup>ふ</sup>節<sup>せつ</sup>を<sup>く</sup>工<sup>く</sup>夫<sup>ふう</sup>したる<sup>なり</sup>と<sup>ぞ</sup>、<sup>ちの</sup>近<sup>ちの</sup>松<sup>まつ</sup>門<sup>もん</sup>左<sup>さ</sup>衛<sup>ゑ</sup>  
 門<sup>もん</sup>は<sup>ご</sup>同<sup>ご</sup>時<sup>じ</sup>の<sup>ひ</sup>人<sup>ひと</sup>にて<sup>この</sup>此<sup>この</sup>義<sup>ぎ</sup>太<sup>たい</sup>夫<sup>ふ</sup>の<sup>さ</sup>作<sup>さ</sup>者<sup>しや</sup>と<sup>お</sup>爲<sup>お</sup>り<sup>お</sup>多<sup>お</sup>くの<sup>じやう</sup>淨<sup>じやう</sup>瑠<sup>る</sup>璃<sup>り</sup>を<sup>つ</sup>作<sup>つく</sup>り<sup>い</sup>出<sup>だ</sup>せり  
 豊<sup>とよ</sup>竹<sup>たけ</sup>は<sup>お</sup>元<sup>げん</sup>祖<sup>そ</sup>を<sup>わ</sup>若<sup>わ</sup>太<sup>たい</sup>夫<sup>ふ</sup>と<sup>い</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>たけ</sup>竹<sup>たけ</sup>本<sup>もと</sup>義<sup>ぎ</sup>太<sup>たい</sup>夫<sup>ふ</sup>と<sup>い</sup>一<sup>い</sup>坐<sup>ざ</sup>せしが<sup>の</sup>後<sup>の</sup>ち<sup>は</sup>一<sup>い</sup>派<sup>ぱ</sup>を<sup>た</sup>立<sup>た</sup>て

別<sup>べつ</sup>に<sup>ご</sup>興<sup>こう</sup>行<sup>ぎやう</sup>せり<sup>わ</sup>若<sup>わ</sup>太<sup>たい</sup>夫<sup>ふ</sup>坐<sup>ざ</sup>は<sup>この</sup>此<sup>この</sup>人<sup>ひと</sup>始<sup>はじ</sup>めたる<sup>なり</sup>、<sup>たけ</sup>竹<sup>たけ</sup>本<sup>もと</sup>坐<sup>ざ</sup>は<sup>ご</sup>後<sup>ご</sup>世<sup>せい</sup>まで<sup>ご</sup>存<sup>ぞん</sup>せ  
 ざりし<sup>もの</sup>と<sup>み</sup>見<sup>み</sup>ゆ、<sup>また</sup>又<sup>また</sup>歌<sup>か</sup>舞<sup>ぶ</sup>伎<sup>ぎ</sup>芝<sup>しば</sup>居<sup>ゐ</sup>は<sup>くわん</sup>寛<sup>くわん</sup>永<sup>えい</sup>年<sup>ねん</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>だん</sup>段<sup>だん</sup>介<sup>けい</sup>とい<sup>ふ</sup>者<sup>もの</sup>京<sup>きやう</sup>都<sup>と</sup>よ  
 り<sup>くだ</sup>下<sup>くだ</sup>り<sup>し</sup>下<sup>くだ</sup>藤<sup>ふじ</sup>波<sup>は</sup>領<sup>りやう</sup>の<sup>お</sup>娼<sup>お</sup>妓<sup>ぎ</sup>に<sup>みや</sup>都<sup>と</sup>踊<sup>おど</sup>りを<sup>お</sup>教<sup>おし</sup>へて<sup>かり</sup>假<sup>かり</sup>芝<sup>しば</sup>居<sup>ゐ</sup>を<sup>はじ</sup>初<sup>はじ</sup>めて<sup>た</sup>立<sup>た</sup>てたり<sup>是</sup>  
 れ<sup>お</sup>大<sup>お</sup>坂<sup>さか</sup>歌<sup>か</sup>舞<sup>ぶ</sup>伎<sup>ぎ</sup>の<sup>はじ</sup>始<sup>はじ</sup>まり、<sup>それ</sup>夫<sup>それ</sup>より<sup>おん</sup>女<sup>にょ</sup>藝<sup>ぎ</sup>を<sup>お</sup>禁<sup>お</sup>じたる<sup>を</sup>以<sup>もつ</sup>て<sup>し</sup>摺<sup>し</sup>屋<sup>やく</sup>九<sup>く</sup>郎<sup>らう</sup>右<sup>みぎ</sup>衛<sup>ゑ</sup>  
 門<sup>もん</sup>、<sup>お</sup>同<sup>ご</sup>九<sup>く</sup>郎<sup>らう</sup>左<sup>さ</sup>衛<sup>ゑ</sup>門<sup>もん</sup>、<sup>お</sup>大<sup>お</sup>和<sup>わ</sup>屋<sup>や</sup>甚<sup>じん</sup>兵<sup>へい</sup>衛<sup>ゑ</sup>、<sup>お</sup>河<sup>か</sup>内<sup>ない</sup>屋<sup>や</sup>與<sup>よ</sup>八<sup>はち</sup>郎<sup>らう</sup>、<sup>お</sup>松<sup>まつ</sup>本<sup>もと</sup>名<sup>な</sup>左<sup>さ</sup>衛<sup>ゑ</sup>門<sup>もん</sup>、  
<sup>お</sup>大<sup>お</sup>坂<sup>さか</sup>太<sup>たい</sup>左<sup>さ</sup>衛<sup>ゑ</sup>門<sup>もん</sup>等<sup>ら</sup>京<sup>きやう</sup>都<sup>と</sup>より<sup>お</sup>大<sup>お</sup>坂<sup>さか</sup>へ<sup>くだ</sup>下<sup>くだ</sup>り<sup>この</sup>此<sup>この</sup>歌<sup>か</sup>舞<sup>ぶ</sup>伎<sup>ぎ</sup>芝<sup>しば</sup>居<sup>ゐ</sup>を<sup>ご</sup>興<sup>こう</sup>行<sup>ぎやう</sup>したり<sup>其</sup>頃<sup>ころ</sup>  
 は<sup>お</sup>皆<sup>みな</sup>濱<sup>はま</sup>芝<sup>しば</sup>居<sup>ゐ</sup>ありしが<sup>し</sup>次<sup>し</sup>第<sup>だい</sup>に<sup>はん</sup>繁<sup>はん</sup>昌<sup>じやう</sup>して<sup>ひ</sup>人<sup>ひと</sup>數<sup>かず</sup>も<sup>お</sup>増<sup>あ</sup>し<sup>わ</sup>若<sup>わ</sup>衆<sup>しゆう</sup>變<sup>へん</sup>童<sup>どう</sup>五<sup>ご</sup>十<sup>じゆう</sup>人<sup>にん</sup>許<sup>ばり</sup>り  
 づ、<sup>い</sup>入<sup>い</sup>替<sup>か</sup>り<sup>く</sup>踊<sup>おど</sup>らせたり、<sup>その</sup>其<sup>その</sup>頃<sup>ころ</sup>は<sup>お</sup>名<sup>な</sup>代<sup>だい</sup>坐<sup>ざ</sup>本<sup>もと</sup>の<sup>き</sup>極<sup>き</sup>りも<sup>お</sup>無<sup>な</sup>く、<sup>か</sup>勝<sup>かつ</sup>手<sup>て</sup>に  
 之<sup>これ</sup>を<sup>か</sup>爲<sup>な</sup>せしに<sup>けい</sup>慶<sup>けい</sup>安<sup>あん</sup>五<sup>ご</sup>年<sup>ねん</sup>に<sup>いた</sup>至<sup>いた</sup>り、<sup>お</sup>名<sup>な</sup>代<sup>だい</sup>も<sup>あ</sup>改<sup>あらた</sup>まりたり<sup>其</sup>後<sup>のち</sup>例<sup>れい</sup>年<sup>ねん</sup>十<sup>じゆう</sup>一<sup>いつ</sup>月<sup>げつ</sup>の  
 頃<sup>ころ</sup>、<sup>よ</sup>夜<sup>よ</sup>に<sup>い</sup>入<sup>い</sup>りて<sup>わ</sup>俳<sup>わ</sup>優<sup>う</sup>の<sup>か</sup>顔<sup>かほ</sup>見<sup>み</sup>世<sup>せ</sup>と<sup>す</sup>素<sup>す</sup>顔<sup>かほ</sup>を<sup>み</sup>見<sup>み</sup>せる<sup>こと</sup>あり、<sup>きた</sup>北<sup>きた</sup>濱<sup>はま</sup>連<sup>れん</sup>の

手打などありしが今は廢したり、偕又濱側にはいろは茶屋とて芝居茶屋多く列ぶたるが今は以前よりは少くなりしが如し、今は年中休業せざりしが維新前には二の替り、三の替り、盆替りなどいひて年中六回の興行と定まりたるなり今道頓堀川に太左衛門橋あり又芝居側の西に九郎右衛門町あるは京都より下りし人々の名残なるべし戎橋 櫓町の西、即ち芝居側を西へ外れたる處、道頓堀川に架る、北は長堀川に架りたる心齋橋にて大坂第一、人の集ふて渡る橋なり十日戎參詣の本道に當る故に斯く名づくると云ふ

日本橋 芝居側の東にて道頓堀川に架れり堀筋に當る此橋北詰の東西には旅人宿多く總て道頓堀川北岸には東横堀より西横堀まで通じて

旅人宿多し唯だ中頃なる宗右衛門町に遊里の間まることあるのみなり

二ツ井 道頓堀芝居側の通りの東、松屋町筋へ出る前に在り、清泉にて有名なるものなり、此西に津清とて岩おこし菓子屋あり是亦有名あるものなり是より日本橋南詰までは繩上とて賑ひなる町なり

生玉神社 難波坐生國魂神社と云ふ二ツ井の東南、松屋町筋より上りたる處に在り官幣大社にして祭神は新田部直の祖、活玉命あり、當社勸請の初は年歴久遠にして詳ならず社頭は舊と今の大坂城の地に在りしが明應四年本願寺の蓮如上人御堂創建の時、當社を側に移す其後天正年中織田信長公本願寺の顯如上人と數年間

戦争の時兵火に罹りて灰燼となりたり然るを繞に神靈を納めて小祠を營み慶長の初豐太閤金城を修補し給ふ時今の社地に遷されたり此時の奉行は片桐東市正且元なりしと云ふ本社は東向にて左右に末社ありて北の方は天照大神、豊受大神、大日貴命、事代主命、少彦名命、南の方は八幡宮、住吉社、嚴島社、金刀比羅社なり又神寶靈玉あり其昔玉造に現れ給ひし靈玉と云ふ本社其他諸殿は建築壯麗にして本社の後邊崖の上に舞臺あり舞臺よりは大坂市中及び河口又遠く海面を望むを得、誠に絶景なり尙又境内には清潔の茶店多く門前の池には夏日紅白の蓮を咲かしめ春は境内に多くの櫻ありて夜櫻の催あり遊人四方より集ひ來りて賑はし、

北向八幡宮 生玉門前の南の方蓮池の側に在り此社勸請の始は慶長年中城中の諸士此地に於て射御の稽古を爲せり因て此邊りの地名を今に馬場先と云へり又八幡宮の故に北向なるは大坂城を守護せらるゝが爲なりとぞ

寺町 生玉社の東西より高津の東、小橋の里までも列れり、即ち西より野ぐれば下寺町、中寺町、生玉寺町、上寺町、小橋寺町等あり莊嚴なる寺院多し就中下寺町の南端なる遊行寺は遊行上人の住持せし有名な寺院にて名ある藝人の墓多く、生玉寺町の持明院には飛騨内匠作の聖觀音を安置し御室仁和寺宮より御寄附の金刀比羅宮鎮坐す此他谷町筋地藏坂専修院に類焼地藏尊等あり

上小竹葉野 生玉の鳥居より東北の方の總名なり

高津神社 生玉社の北、高津の丘上に在り、祭神は 仁徳天皇なり、

當社の創建は最も古くして何時の頃なりしや 詳ならず傳へ云ふ上

古の社地と是より北にして小橋寺町より餅指町に至る所に在りたり

と末社九神あり、又本社またほんしやの東ひがしに高倉稻荷社たかくらいなぎあり靈驗ありとて賽する

著常に絶えず本社ほんしやは南向みなみむきにて西方さいほうに舞臺あり道頓堀だうどんぼりの正東まひがしに當れる

一壘たかの丘かみに在るを以て一直線ちきくせんに道頓堀川だうどんぼりがわに臨み其他市中一般はんに見渡

すを得べし其絶景そつげいなること類多たぐひおほからず舞臺まいたいの北手きたてに西坂にしざかあり又本社

の西手にしでに北坂きたざかあり西坂にしざかを下りたる町には有名いふめいの黒燒屋くろやきや二戸あり本社

の南みなみ、石燈いしだんを下るれば西側にしがはに有名いふめいの湯豆腐屋ゆとうふやあり南みなみは向ひて表鳥居おもてどり

の方へ行けば梅の橋あり其南なる表鳥居の外通りを梅が辻といふ是れ難波の梅より起りし名あるべし

吉助 高津神社の西に在り植木屋にして園内には種々の花樹あり就中牡丹の花盛りの頃に諸人群集してこれを観る、有名なる植木屋あり

松屋町筋 下寺町遊行寺より北は天神橋南詰までを云ふ上町にては長く南北に通る繁盛の町筋なり就中瓦屋橋筋より安堂寺橋筋まで

には雜菓子商、玩物商多く北に行きて本町橋筋の北に至れば博物場の裏門に出づべし

空堀 松屋町筋九之助橋の北通りを東へ通りたる町筋あり、此地は大

坂陣の時空濠の在りし地なりと云ふ

朝日神明宮 松屋町筋安堂寺町の北に在り、世に逆櫓社と云ふ源義

經梶原景時逆櫓の論を爲し互に祈願せし所なりと云ふ當社實は阪口

王子祠といふは熊野御幸記に見ゆたり之は若一王子にして則ち天照

大神あり神寶に多田滿仲と源義經梶原景時の寄附したる武器數々

あり此處を論の岸、或は樓の岸ともいふとぞ

寶泉寺 内安堂寺町筋櫻町に在る尼寺なり、本尊は聖德太子御作の正

觀音にて太子の乳母雜髮の後ち四天王寺引聲堂の南に庵を結で住ま

れしに其菴室後世に至り、頽廢したれば覺如比丘尼再興して此處に

移したりとぞ

大阪博物館 本町橋東詰北へ入たる處に在り此地は維新前西町奉行所

の在りし地なり維新の後ち斯く博物館と爲る場内には美術館あり建

築壯麗にして館内には美術品の陳列備はれり此他勸業品の陳列場多

く何を購ふとして整はざることなし尙又泉水築山等あり園内美麗を

る中に休憩所あり動物即ち鳥獸等を縦覽せしむる處あり能舞臺あり

茶室あり時々音曲等の催しあり

照日神明宮 内平野町に在り祭神は中央天照大神、左八幡宮、右春日

明神なり當社は其昔京都洛西の西院に在りしを元和二年松平清匡祈

願成就に依て此地へ勧請せしと云ふ

天野屋利兵衛の宅址 内淡路町東堀通の南角屋敷なり利兵衛は二代目

にて初代を九郎兵衛といひ豪富の人にて元和の頃より此に住ひ其頃の  
總年寄役、町年寄役を兼帶したり夫の院本なとに天川屋儀平とあ  
るこ此利兵衛を云ひたるものにて淺野家に對し忠を盡し義を立てた  
るは世の人の知る所あり

高田専修寺懸所 谷町二丁目に在り勢州一身田の懸所にして欣淨寺と  
号す自華御坊なり本尊は安阿彌の作阿彌陀佛なり

鐘町 上町高麗橋通りの南の通りにあり大江坂の釣鐘とて有名の釣  
鐘あり維新前には市中の火見樓ありし地あり

八軒家 天神橋南詰より東の濱通りを云ふ此地は伏見に通ふ三十石船  
の發着場なりしを以て其名高し八軒家といふは初め八軒の旅舎あり

しを以て此名起れりと云ふ今は伏見通ひの川蒸氣船も此に發着する  
なり

樓屋敷 高麗橋西詰にあり大坂城外郭の名残なり平野町堀筋にもあ  
りたり高麗橋東詰には里程元標あり又此橋筋に三井銀行、越後屋  
呉服店、第一銀行支店等あり廣濶なる好ま町なり

築地 高麗橋西詰を北へ行き止れる東手に在り北は淀川、東は東横堀  
に臨み殊に淀川に向ひたる風景は得も言はれざる風景なり故に此地  
多くは席貸なり就中東北の角地に在る竹式樓は築造も好く風景にも

富めり

北濱 築地の西、淀川の南岸の通を云ふ風景に富みたる地にて旅舎に

は花外樓、專崎あり、特に專崎は高等の旅舎にて高貴の客大坂に來れば多くは此旅舎に寓す

株式取引所 北濱通八百屋町筋東へ入る所にあり、近頃建築落成なりて頗る壯麗なり此邊りは維新の前、金相場の立ちたる處にて市中の両替商此に集りて金相場を建てしなり

日本銀行支店 北濱通りの最西の西國橋の東詰陸側に在り堅固なる築造なり

今橋通り 今橋は高麗橋の北、東横堀に架れり此橋筋にて船場の地には八百屋町筋の角屋敷に藤田組の店あり此八百屋町北へ入る處は十兵衛横町とて有名の横町あり之と十兵衛横町といふは横町の東角に

弘法大師へ金を貸せしといふ豪家天王寺屋五兵衛あり西角に同じく豪家にて平野屋五兵衛といふ者ありし故なり藤田組商店は此西角に在り夫より西、浪花橋筋の北西角には鴻池銀行あり舊より鴻池氏の居宅なり、又西にて心齋橋筋東へ入る舊の加島屋作次郎氏居宅趾にと緒方病院あり是より西にと辨護士業の家多し

伏見町 高麗橋筋の南の町なり、舊と唐物屋多き町なり今は此業体の家なけれども井池筋の角屋敷に貯金銀行あり

道修町 伏見町の南の町なり、藥種屋軒を列べり斯く藥種屋の軒を列べし地は東京にも西京にも無し、又是より南、平野町、淡路町にも少々有り



佛光寺懸所 道修町の南、平野町筋中橋西へ入る南側に在り、船場御

堂と稱す

御靈社 平野町の西、御靈筋に在り一圓社と云ふ、天正年中龜井能

登守の第邸此に在りて同侯より勸請せしかり故に此町を龜井町と

云へり祭神は中央天照大神、左八幡宮、右鎌倉權五郎景政の靈を祭

る故に又世人は五郎神とも云ふ境内に末社多く種々興行所あり境外

は殊に賑はしく例月一日、六の日は縁日にて露店多く出で御靈の

一六とて縁日市には大阪第一なり

津村御堂 安土町御堂筋に在り表御堂とも北の御堂とも云ふ京都西本

願寺の懸所なり津村御堂といふは圓御堂の訛ならんと云へり本尊

は安阿彌の作阿彌陀佛なり本堂の外二尊堂、對面所、轉輪藏、鐘堂

鼓樓、茶所等あり、當御堂元祿年中裏町邊筋六十間、安土町四

十間を買取りて境内とせしが享保九年三月大火ありて類焼し其後南

の方本町筋の人家を轉じて寺内とし今の如くなりたるなり裏門は渡

邊筋に在り不開の門とて非常の外は開かざるなり

鳥屋町 塚筋の東の通りなり八百屋町筋と云ふ安土町邊には鳥屋多か

りしを以て斯く云ふなり

梅檀木 中橋筋と井池筋との間の筋を云ふ昔し此通りに大なる梅檀木

ありたり故に斯く云ふとぞ

唐物町 南本町の南に在り、唐物町といへど此よりは唐物屋なく草細工

屋、竹細工屋等ありたり今は少き

難波御堂 南久太郎町御堂筋に在り裏御堂とも又南の御堂とも云ふ京

都東本願寺の懸所なり本尊は安阿彌の作阿彌陀佛なり本堂の外には

對面所、書院、鐘堂、鼓樓、唐門、茶所、窟門等あり、當御堂は中

興第十二代妙如上人徳川幕府より台命を蒙りて此地を受け之を營築

し難波御坊と云ふ其以前又祿年中には道修町一丁目に在りて渡邊御

坊と云ひしなり台命を蒙りて此に移りしは慶長の末にて裏手の窟門

の上には霧島躑躅を多く植ゑ其石垣の石は大石にて誠に市中の壯觀

あり又窟門は暑中に涼風來るとて往來の者多く憩へり

座摩神社 難波御堂の西、南渡邊町にあり祭神は生井神、福井神、綱

長井神、此三津井神なりこれに龜 神二座を合祀す、神名帳には波

比祇神、阿須婆神を併せて五座なりと云へり末社の十一社あり境内

には神樂殿、繪馬舎、二股竹ありしが、此竹之今は無し、抑も當社

の鎮座は 神功皇后三韓より凱陣し給ふ時 神武天皇の吉例によ

御船を浪速の岸浮見石の上によせて神璽を鎮めて齋きたまふ神社な

り、されど當處は後世移せし地にて舊地は大江岸國府町即ち今の石

町の地なり此石町より天正年中淡路町一丁目に移し其後ち又今の處

に移せしなり又此境内は西横堀岸へ通り抜くるを得べし其側なる南

西部には飲食店あり

芭蕉翁終焉地 南久太郎町六丁目花屋が裏に在り此地は芭蕉翁奈良よ

り此大坂に來り病床に臥して逝去せし地なり

鯛屋貞柳宅趾 南御堂前舊雜屋町西南角なり此人此處に居住し菓子を

製して業とし鯛屋山城様と號す教歌に名高き玉雲齋信海が門に入

て若年より修業し此道を以て世に鳴る齋號を油煙齋と云へり

南久寶寺町 南久太郎町より南へ三筋目に在り小間物商軒を列ぶ諸縣

より小間物仕入に來る者は皆此處に來りて仕入るゝなり

上難波神社 南久寶寺町通の西上難波町に在り世俗博勞町の稻荷と云

ふ祭神は鵜飼聖帝即ち 仁徳天皇なり稻荷祠は末社なり之を博勞町

の稻荷といふ境内南久寶寺町筋と博勞町筋との間に在りて博勞町

筋表面となりたる故なりされば之を神社の稱とするは訛なり此他

末社等あり當社の創建は 反正天皇元年冬十月にて勅に依て大江坂

平野郷に鎮座ありたり然るに天正十年大坂城を築く時此上難波に移

せしなり其昔平野郷にありし時には 後三條帝詣し給ひしことあり

源頼朝、足利將軍等社參あり神領を寄附したることあり之より西

渡邊筋に古着屋多し

順慶町 博勞町の南通にて新町に通りたる町あり維新前には毎夜露

店出で賑ひたるを以て其名全國に聞ゆ今は然らざれども心齋橋筋

より西は賑かなり

油懸地藏 安堂寺町一丁目筋の角にあり地藏尊は石佛なり祈願する者

油を注げて祈願するを以て斯く号くるあり、此石佛の背面には天平

十一年安曇寺と彫るしありとぞ、之に依て考ふれば安曇寺は安曇寺の訛なるべし

井池 今は亡けれと搦町心齋橋筋近傍に難波薬師あり境内廣くして今の井池筋に倚りたる處に瀝き池あり今は井と爲れり池中に片葉の芦を生ず井池といふは此池の名残なるべしと云ふ

心齋橋 長堀川の東より六ツ目に架りたる橋あり圓形の欄干ある鐵橋にして大坂市中にては第一着に架りたる鐵橋なり橋の北詰東へ入る處は電信分局あり此橋の南北は心齋橋筋とて兩側に種々の商店軒を列べ往來織るが如く大坂第一の繁盛なる通街なり

雛屋町 心齋橋筋の西の通り御堂前の通りなり雛商多きを以て斯く云

ふ呉服店小橋屋は此通り北久寶寺町の角に在り

住友邸 長堀の南岸の東端に在り一丁四面の邸にて前は長堀、右は東横堀に濱す川添の地には花木を植ゑ殆ど公園の態を爲す、東の客室は洋館にして壯麗なり庭園も亦市中に比類なきものなり後面の鰯谷通には外園に通ふ閑道あり木造にして架撤自在にし往來の上に架れり

瓦屋橋 島の内八幡筋に當り東横堀川に架る橋西に絞油屋ありとて阿

染久松といふ淨瑠璃を作る之を以て橋名高し

三津寺 八幡筋の南三津寺筋に在り古義真言宗にして大福院と號す、

本尊は行基菩薩の作十一面觀世音にて開基も行基菩薩なりと云ふ創

建の年古くして詳ならず一に三津八幡宮の神宮寺なりしと云へり  
三津八幡宮 八幡筋木綿屋橋の東に在り祭神は 應神天皇なり勸請  
の年歴久遠にして詳ならず、或くは往昔宇佐より石清水へ移し奉  
る八幡宮三津濱に着せられしによりて祭れるものか

松屋呉服店 島の内清水町心齋橋筋の角に在り大丸屋なれど松屋の老  
舗を継ぎたるを以て斯く稱せりとぞ

石濱 長堀川心齋橋の西に架れる佐野屋橋南詰西へ入る河岸を云ふ石  
商軒を並べ川岸には種々の石材を置けり今は少し又石商は島の内九  
之助橋東詰南へ入る處にも多し、佐野屋橋は南北共に古着商列べり

四ッ橋 長堀川と西横堀川と交はる處に在り長堀川に二橋、西横堀川

に二橋架れるを以て四ッ橋と云ふなり、されど一ッくの名あり長

堀川に架るものは炭屋橋、吉野屋橋よて西横堀川に架れるものは上

繋橋、下繋橋あり吉野屋橋の南詰には源藏張とて煙管屋多し

新町橋 西横堀川新町筋に架れり今も「かなれ」も維新の前には瓢箪

町の遊廓ありしを以て一層賑かにて其名遠近に聞えたり

瀬戸物町 西横堀川に西岸、新町橋西詰より凡る京町橋西詰までを云

ふ瀬戸物商多くあり、故に斯く名くるなり例年七月地藏會には陶器

を以て種々の作り物を爲す見物人群集して賑はし、

筋違橋 高麗橋通りの西、西横堀川に架れり西南より東北へ斜め架

りたるを以て斯く云ふ今は清水橋とて清水町西横堀にも筋違橋あれ

と以前は此橋の他に斯る橋は無かりしあり

玉井 筑前橋の南詰 玉水町にあり、清泉にして四時増減することなし

此町内には西横堀西國橋に近寄たる處に加島屋久左衛門氏あり今

加島銀行を立てり

青年會々堂 玉水町の西に在り赤煉瓦の宏壯なる建築にして時々大演

説會などを催す

京町堀通り 平野町の西、京町橋より大坂府應外人居留地、川口等へ

通りたる通街なり維新前は今程にいなかりしが近頃は大に賑はしき

町と爲りたり

新靴 京町堀川と阿波堀川との間に在り鱈魚干魚の仲買店軒を列べり

凡そ此類の物品此地に無きものはあらず是より西、海部堀の南岸に

も同業多し

永代濱 鞆の西、海部堀の東端に在り即ち海部岸の堀留にて干鰯市盛

なり濱の東側には干鰯藏多く列び是より西、海部堀の北岸には干鰯

問屋多し

解舟町 阿波堀川の南岸に在り西横堀より西へは遠からず、故船を解

きて鬮ぐ家あり

廣教寺 阿波堀川より南へ入りたる薩摩堀際に在り此堀を願慶堀とい

ふは本名なり寺は眞宗にして祝松山と号す本尊は阿彌陀佛にて青

蓮院尊純法親王の持念佛なりしなり、當寺の開基は本願寺第三代覺

如上人の季子善宗上人あり世に薩摩堀御堂と稱す又此寺の書院の庭  
中は山水を縮め風景殊に住く、四方市中なれども芳樹茂りて山林の  
如し

新町 立賣堀川の南、新町橋の西に在り維新の前は東京吉原、京都島  
原に對したる遊廓なりしが今は遊女屋少く重に越後町に在り越後町  
は新町筋の南の通なり其南通を吉原と云ひ新町の北通を九軒といひ  
因て此廓を四條町とも云へり新町通りは現今船場より松島への大通  
りと爲りて百貨の商店軒を列ね遊女屋は數戸遺りて閑るのみ、偕て  
此遊廓なりし起原を索ぬるに往昔天正年中より民家建ち續きて海船  
の要津なりしかば其着船の所々に花魁の家あり其頃はまた野原なり

しを寛永年中此地に初めて廓の許可あり諸方の花魁を此一所に集め

田圃を開きて新たに町とせしなり故に之を新町といふとぞ

鯉座 新町の西、白髮橋筋より鯉座橋筋迄の間に在り諸國より積來れ  
る鯉節を販ぐ仲買店列れり斯く橋にまで名づくる程なれば其名遠近  
に高し

西長堀材木市 長堀川の西長堀より西一帶、川に沿ひて在り、兩岸に  
材木問屋多く何れも川邊に材木を置き或は筏を浮べ毎朝市を爲すな  
り、又此仲買店は東西横堀の東岸に多く問屋は又立賣堀川添の地に  
もあり

堀江市の側 宇和島橋の南、北堀江に在り往古は蔬菜の市を立てし處

なるが今は名のみ遺れり此地に劇場あり市人之を市側の劇場と云ふ  
 堀江の遊里 市の側の西にあり現今新町に敵する程の繁昌と爲れり此  
 遊里は元と西道頓堀の南岸幸町に在りしを此に移したるなり  
 蓮池山和光寺 又阿彌陀池と云ふ堀江遊里の西に在り淨土宗にて院號  
 を智善院と号し信州善光寺より數代住職し後ち尼宮即ち皇族の女王  
 住持し給ふ寺院と爲れり本尊は一光三尊の阿彌陀佛にて本堂の外觀  
 音堂普門堂愛染堂藥師堂抹香地藏焰魔堂地藏堂金刀比羅宮金銅地藏  
 鐘堂あり、さて阿彌陀池と稱するは本堂の北に當りて池あり池中に  
 寶塔ありて橋を架け之へ參詣するやう爲したり寶塔には彌陀三尊を  
 安置し常燈ありて其燈火滅ゆること無しと云ふ、當寺の本尊は信州

善光寺如來と同體なり善光寺如來は欽明天皇の御宇百濟の國より傳  
 來したる佛像なるを物部守屋難波の堀江に投じて其後本多善光其如  
 來の沈める邊りを過りしに佛告ありて脊に負ひ信州に歸りて安置し  
 たり然るに此像は如來伊豆の淨蓮上人に告げて擬像を鑄造せしめら  
 れ又此寺は難波の堀江の古跡なればとて元祿十一年智善上人此地を  
 關さ此本尊を安置せしと云ふ、按ずるに難波の堀江は大和國高市郡  
 飛鳥川の西の邊りに在りと云へり四天王寺建立の時船場は港内にて  
 此邊りは海中なりしに此地に堀江ありしは不審し畢竟と擬地なるべ  
 し此周圍にて二月十五日四月八日大に植木市あり

土佐の稻荷社 和光寺の西玉造橋南詰東へ入る處に在り此地今と岩崎



氏の所有なれど維新前には土州侯の藏屋敷にて稻荷社は此藏屋敷の鎮守なりしなり、されど其頃より諸人に参拜を許したり今は境内を廣め花樹を植ゑ殆ど公園の如くなりたり

府會議事堂 西横堀川の最も南に架れる金屋橋の西詰西へ入る處に在り元と加賀侯の藏屋敷地にて建築壯麗なり

電燈會社 議事堂の西に在り市中の電燈に電氣を送る處なり  
諭伽神社 西道頓堀 幸橋北詰に在り備前諭伽社の出張と云ふ盜難を

免れしめらるるとて賽者多し例月三日、縁日にて此邊りより北は問屋橋まで露店出で、賑はしく此縁日は御靈神社の一六に亞ぐ縁日なり

橘通り 南堀江に在り東西に通うて長さ間道具商列べり市中には上町に御枝筋、船場に井池、島の内に八幡筋、高津新地に鐘筋等われど此地最も同業多し

赤手拭稻荷社 幸町の南、田野の中に在り賽者多し

西濱町 赤手拭社の南、木津の西に在り舊は渡邊村とて世に其名高し方今革商にて巨豪の者數戸あり其小學校を建築壯麗なり

千本松 西濱町の南、木津川口に在り海濱の松原にて其風景絶佳なり  
三軒屋紡績場 西濱町より木津川を間て、西に在り大阪市には紡績場

多しと雖も其建築は之を以て最第一とす  
尻無川口 三軒屋の西南に在り汐干には市人集ひて蛤を取り又秋には

此堤の楹の紅葉を賞す

天保山 尻無川口と其西なる安治川口との間に在る島地に在り陸軍省

所轄の砲臺あり又燈臺あり其邊りには天保町とて漁師の家多く海水

浴場ありて近頃浴客多し此地斯る地なれば頗る風景に富めり網船と

て漁船に乗りて遊ぶ者は此天保山沖に遊漁するなり偕又瑞見山と云

ふあり、川村瑞見安治と云ふ人安治川を堀りし時土砂を此地に上げ

しめ之を以て河口の難を防ぎし故斯く名づくこと云ひ或は波除山とモ

云ふ是れ洪水の時高濤を此處にて堰除る故なりとぞ

安治川 淀川の下流にて海に入る所の川の稱なり此川は貞享年中川村

瑞見安治と云ふ人水理に委しく此川筋を堀りたり故に安治の字音を

名とし安治川と云ふなり

潮見櫻 北安治川の下、六軒家川の堤に在り列樹の櫻にて其名高し

水尾衝石 安治川口の下河海の界一の洲に在り水尾木とて潯標の事な

り

蛭子松 木津川町の北端、尻無川に沿ひたる處に在り三百餘年を経た

る古松なり松の傍に蛭子祠あり初め此地を蛭子島と云ひしとぞ

衝壞島 今は九條島と書す松島の西南、南安治川の東にあり寛永年中

武田信玄の裔孫香西哲雲と云ふ人怒濤を防ぐ爲に築きたる砂洲の跡

なり今單に九條と云ふ

竹林寺 九條に在り淨土宗にして惣心山寶樹院と號す本願は香西哲雲

にして開基は教習上人、建立は寛永年中なり本尊阿彌陀佛は惠心僧  
都の作にて長三尺許りあり境内には三股竹、香の梅あり

茨住吉社 九條に在り祭神は底筒男、中筒男、表筒男、神功皇后の四  
坐なり末社に之貴布禰、龍田、船玉、天満宮の四坐を祭る當社は寛  
永元年香西哲雲之を勸請すと云ふ、又茨住吉と名くる所以は此地  
始め茨多かりし故とも云ひ菟原郡の住吉の神を勸請したる故とも云  
へり

九島禪院 九條に在り靈龜山と号し禪宗黄檗派にて開基は龍溪禪師、

本尊は長三尺許りの聖観音なり

寺島 松島の南に在り木津川に沿へり造船工多き地にて其名高し

松島遊廓 木津川の西岸に在り明治の初めに開けたり其北端に古松あり、

之を松が鼻と云ふ此地舊は寂しき地なりしに今は斯く賑ひ劇場

寄席ありて飲食店等多し

博勞淵の舊蹟 長堀高橋の邊り民家の裏に在り、大坂冬陣に薄田兼相

の兵屯せし所なり今此邊りの木津川に沿ひたる地を博勞と云ひ長堀

より北を上博勞、南を下博勞とす凡そ此近邊には荷受問屋、船具商

等多し

松島橋 新町筋の南一筋より松島に渡る橋なり往來繁く橋上の眺好き

橋なり

富島 松島の西北にあり一に大佛島とも云ふ其昔南都東大寺大佛殿再

建の時大勸進として沙門龍松院公慶小室を結びて諸國の廻船入津の時勸進せし地なる故なり、今は此地に蒸瀛問屋廻漕店多く住友氏の商店、商船會社等此に在るなり

川口波止場 富島町安治川の南岸に在り汽船の發着絶間なく乗客輻湊して難沓す、此地に税關あり右に記せし如く汽船問屋或は荷物運送の取扱所等 備はれり

外國人居留地 富島町の東、親和橋を渡りたる地にあり石造煉瓦造の家屋列り往來の側には柳樹を植ゑ街衢整正且つ清潔なり

安治川橋 居留地より北安治川に渡る橋にて古來有名の橋梁なり

大坂府廳 居留地の東の方木津川橋を渡りたる江子島上の町に在り花

崗石にて造りたる巍々堂々たる官廳なり西面を表門とし東面を裏門とし外圍には鉄柵を繞らす、南に氣象臺あり北には通街を間て、郵便電信分局あり

雜喉場魚市 大阪府廳より東北の方、下の橋を渡りたる處に在り京町堀通りの西に當る、此地生魚の市場たることは何國の人々も能く知る所なるが其起原を索ぬるに此地と其古は鷹島と云ふ地にて魚市場は故と城の西に在りて堀魚干魚も共に其地に市を立てたり其賣聲を安しくと呼はりしを秀吉公通駕の時、賣聲を聞かれ安しとは矢巢の聲なり矢巢ならば鞆といふべきなりと言はれしに由り其地を鞆と号けたり其後鮮魚鹽魚の市場を異にし鹽魚市場は今の鞆の地に遷り

たり由て新朝といふなり偕て此鮮魚市場は故鞆より地を轉へて慶安承應の頃は安土町、備後町の邊り、後に上魚屋町と云ふ地に在りて其地を沖上りと云ひたり其故は例年三月より十月までは時候温かにて鮮魚運送中に餓れる憂ありとて今の此地則ち鷹島に出店を出し出張りて市を爲したり、されど十月より三月までは上魚屋町の本店にて營業せしに其後延寶の頃より西南浦々の漁人と本店へ運送するを厭ひたる故遂に本店を今の地へ移すことゝ爲りたりとぞ

商品陳列所 田菘橋北詰の角に在り、建築壯麗にして陳列したる商品物を縦覽せしむる所なり凡そ此邊りは川を夾みて兩岸に壯麗なる築造物多く此陳列所の西、玉江橋北詰の角には尋常中學校あり東に之商

業會議所、測候所、商業學校あり川の南岸には府立病院、醫學校、尋常師範學校、高等女學校等あり又堂島紡績所等の壯麗なる工場も在り

福島天神祠 上福島、中福島、下福島、三ヶ處に在り祭神は菅公なり菅公筑紫へ左遷の時、此地其頃島なりしを以て船がくりせられ里人に島の名を尋ねられしに里人と餓鬼島と答へたり菅公は不祥の名なれば福島と更むべし左すれば後世繁昌すべしと言はれしことあり故に斯く名づけ又異名を葭原島とも云ふとぞ

逆櫓松 上福島橋詰町杉本氏の別荘に在り元暦の頃廷尉源義經梶原景時と逆櫓の爭論ありし所と云ふ松は大樹にて株の形驚きたる蛇に

似たり千載をへ経たる松と見ゆるとぞ

鬼貫の舊蹟 福島に在り、鬼貫は芭蕉翁と同時の人にて俳諧に名あり

野田の藤 野田村春日祠の林中に在り藤藤とて其名高し里謡にも「吉

野の櫻野田の藤と唄へり彌生の花盛には遠近の人集ひ来て之を賞す

花の下には茶店割烹舗處々に在り

曾呂利菴 野田の藤の傍にあり天文年中逆亂の時此藤の故樹兵火に罹

りて亡び只古跡のみとなりしを文祿年中豊臣秀吉公此處に駕を巡ら

され紫藤の僅に遺りしを遊覽あり其時休憩せられし亭なり然るに之

を曾呂利菴といふ所以は秀吉公藤の菴と号け傍衆なる曾呂利新左衛

門に命じて額を書かせたる故なりとぞ

證如上人の舊蹟 圓満寺と云ふ、野田村に在り當寺は天文元年の創

建にして本願寺第十代證如上人開基住職せられしなり舊と山科の

御堂に在りしを近江の佐々木六角彈正定頼、日蓮宗の僧徒と一味し

四方より圍み放火して攻落し大坂まで追來りて上人を責め討たん

とせり時に此地及び近郷の門徒馳せ集り身命を惜まず之を防ぎ又天

文二年復ひ襲ひ來りし時も野田福島門徒之を追拂ひたりとぞ當寺

は其頃上人の住せし寺院なり

妙徳寺 福島に在り禪宗黃檗派の寺院にて山号を龍王山と号す開

基は鉄梅和尚にして正徳年中南源和尚造立せり世俗福島五百羅漢

寺と云ふは是れなり本尊之釋迦佛にして其周りに五百羅漢あり高僧

の手跡の物多し

野田の城跡 野田村に在り初め細川氏綱在城し天正年中には信長公の  
旗下壘を築きて居れり是等の趾なり

判官松 御手村大和田に在り九郎判官義經大物浦に赴く時憩ひたる  
地なりと云ふ

傳法 即ち傳法村なり此村名を傳法寺と云ふ佛院より轉じて地名とな  
り、佛院は今は亡きなり、之を北傳法、南傳法と分れり、偕て世俗

に此地を傳法と云ふは昔し欽明帝の御宇我朝へ佛法の渡りし時佛像  
經論初めて此處に着岸したるに起ると云ふ現今此地に壯麗なる紡績

場あり是にて大坂市中近傍名所舊跡は巡り終りたれば復び福島を經

て梅田停車場に還るべし偕て伊丹池田等を巡るには是より瀛車にて  
神崎に行き馬車にて先づ伊丹に行くべし

伊丹 河邊郡の都會の地にて有名なる造酒地なり且つ此地は京都大坂  
有馬三田に通ずる驛路に當るを以て土地殷賑なり大坂よりは四里あ

り當處には金岡清水あり町の東に荒木攝津守村重の城趾あり  
猪名川 池田川の上流なり古歌の名所なり

池田 豊島郡の都會にて是れ亦た造酒の名地なり大坂よりは五里あり  
古へ吳服里と云ひしは此地なり

唐船淵 池田の猪名川の中に在り應神天皇三年吳織穴織の二女來朝  
して此水門に着岸す、昔しは此邊西海についで常に通船ありたり

江は後世埋れて民村田圃と爲れり

染殿井 池田町の南端田圃の中に在り吳織穴織の二女糸を染めたる井

なり今は水涸れて形のみ叢の中に在り

絹繫松 池田の東、北山頭に在り二女染めたる絹を繫け干てしたる松

樹なりとぞ

織殿舊址 池田の南の田野を吳織野と云ふ其中なる田圃中に在り二女

の絹を織初めし古跡なり

梅室姫室 の舊趾池田町に在り二女の機織道具を收めたる處なり

荒木村重の墓 吳織野に在りて墓畔に小塚三ツあり

有岡古城 池田の東北に在り池田信輝の居城なりしなり

兼好の松 池田の東南、竹林の中に在り里諺に云ふ吉川兼好法師乱を

避けて此地に隠れ住しと

安倍晴明の墓 東畑村に在り塚上には蚊蛇來らずと云ふ

萱野三平の墓 萱野谷芝村陽光院に在り三平は芝村の産にて赤穂の忠

臣なりしことは世の知る所なり

久安寺 伏尾村に在り古義真言宗にして山號を大澤山と號し、又安養

院と云ふ草創より千有餘歳を経たる古刹にして行基菩薩の開基、即

ち觀世音の懸場なり開基は聖武帝の御宇神龜二年なりと云ふ本尊と

定朝の作一尺八寸の十一面觀世音にて境内には護摩堂、阿彌陀堂、

御影堂、鎮守白山權現、藥師堂、荒神社、善女龍王社、辨財天社、



天満宮、子院等あり春は櫻花、秋は楓葉の佳地なり逆川、千代橋、  
観音石、車籠、小鶴庭、連理瀧、水精清水等は有名のものなり

中山寺 伊丹より一里半の地、中山に在り古義真言宗にして紫雲山と  
號す、本尊は十一面觀音にして境内には薬師堂、地藏堂、太子堂  
等あり又本社ありて忍熊王、疫神大中姫を祭る西國巡禮第二十四番  
の札所たり創建最も古くして年代詳ならず今の堂舎の地は古の下  
院にして仲哀天皇の妃大中姫を葬り奉りし地なり眞に極樂東門中  
心に當れる靈場にして賽者常に絶えず特に毎年三月八月の両中旬に  
は無縁經修行あるを以て賽者山を爲す

有馬温泉 有馬郡有馬の湯山町中間に在り大阪よりは九里なり浴室は

一字にして湯槽の深さ三尺八寸、横の廣さ一丈二尺五寸、豎の長さ  
二丈一尺、底は敷石にして其石の間々に竹筒を挟む、其中より沸泉  
す味鹹くして潮水の如し又室内を中分して南向を一之湯と云ひ北向  
を二之湯と云ふ此他一種別に妬湯と云ふあり湯本の谷の町に在り女  
子盛粧して此湯の側に佇立すれば忽ち怒沸りて止まず尙又一種明目  
湯あり此湯は妬湯の西、温泉寺の下に在り眼を洗へば翳を除きて明  
かにす故に又俗に目洗湯とも云ふとぞ抑も此温泉は我邦最初の發見  
にして其効驗も他に下らず島大臣始めて之を看出せしより後ち舒明  
天皇兩度の行幸あり孝徳天皇亦此處に行幸し給ふ其行宮の址は今杉  
谷といふ地に在り夫より後ち聖武天皇の御宇行基菩薩、薬師如来の

導きに感じ此山に同佛を安置す其寺院を常喜山温泉寺と云ふ維新の  
 前までは湯槽は此寺院の統轄する所なりしなり依て浴客逗留の旅舎  
 を皆坊と稱し其他は小宿と稱するなり其坊初めは十二坊を營みて守  
 湯の人を置けり、時に建久二年あり其後二坊と爲りて一之湯二之湯  
 其係りを分つ、一之湯係りの坊名は奥之坊、伊勢屋、御所坊、尼崎  
 坊、彌宜屋、角之坊、二階坊、大門、若狭屋、中之坊にて二之湯の  
 係りは池之坊、川崎、休所、河野屋、兵衛、大黒屋、水舟、下大坊  
 素麵屋、茅之坊と云ふ之に各坊大湯女、小湯女とて浴客に随侍する  
 二婢あり大湯女は老婦にて何れの坊も之を薩々と呼ぶ小湯女は各坊  
 其稱異なり奥之坊にて「なつ」と云へば御所坊にて「まさ」と云ふが如

し、此名之何れも通り名にて人代れども名は變へざるなり此小湯女  
 は年齢は十三四歳より十八九歳までの美貌者を撰み紅粉を粧ひて姿  
 を飾らしむ此二婢は浴客に随侍し入湯の時刻を知らせ浴衣を肩にか  
 け案内し衣服を預りなどし酒宴すれば歌をも謡ひ酌をもするなり又  
 入湯に種類あり幕湯、幕間、狹嫌、追込等にて、其幕湯と云ふは浴  
 室の入口に其坊の印を染めたる幕を打て他の客の入るを止むるなり  
 温泉神社 湯山に在り祭神は三坐にて中央は熊野權現、左之三輪神、  
 右は鹿舌明神即ち少彦名命なり

温泉寺 右同所に在り新義真言宗にて行基菩薩の開基なり建久三年仁  
 西上人再營して中興の開祖と爲る今の寺院は天正十年豊臣大閤の北

政所之を造營す寶物多くあり、本尊は丈六の藥師佛にて良覺律師之を彫刻し頭上には長一尺の靈佛を籠め藏む又脇士の日光月光佛は弘法大師の作、十二神將は運慶湛慶の作、額は黃檗山木菴和尚の筆なり

鼓が瀧 湯本より八町許り南に在り其水落ちて鼓の音を爲すを以て斯く号く

有明櫻 鼓が瀧の前に在り彌生の頃には入湯の客之を賞す

蜘蛛瀧 鼓が瀧の奥に在り昔し此瀧に大なる土蜘蛛ありて樵夫を惱ま

す領主之を退治したりと云ふ

白石瀧 蜘蛛瀧の奥に在り瀧壺の邊り皆白石にして光有て水晶の如し

之を採て盈石に用ゆ

鳥地獄 湯本より五町許り南に在り地名を地獄谷と云ふ此所に井水あり之を毒禽湯と云ふ諸鳥之に觸るゝ時は必ず死するなり

有馬富士 湯本より四里北なる角山を云ふ湯山の愛宕の社前より見れば駿河の富士山に似たり

善福寺 能勢郡木代村に在り眞言宗にして山号を如意山と云ふ當寺は推古天皇の御願にして聖德太子の草創なり其昔は伽藍巍々として僧坊多かりしが後世破壊して今は坊舎三ヶ院のみ遺れり長六尺の本尊藥師如來及び脇士十二神將は何れも聖德太子の作にして此他自作の太子の像あり

九十九

高代寺 同郡吉川村の山峯に在り眞言宗にして七寶山と號す當寺は攝津守源滿仲公の本願にして仁和寺寛空僧正の開基なり古は女人の高野と稱せりとぞ

能勢妙見祠 野間村妙見山の峯に在り麓より坂路十六町ありて其一町毎に標石あり大坂よりは八里の地なり本尊は長二尺五寸許りの妙見菩薩にて右手に劔を翳し持ち給ふ像なり抑も此尊容は能勢藏人の妙見城の守護神なり然るに能勢落城の後ち家臣の七士此麓なる野間村に累年居住して之を守り其後野間氏等離散して維新前の領主能勢氏の有と爲り小堂を建立したり近年は應驗炳著なりとて遠近の貴賤參詣する者絶間なし

鬼王團三郎の塔 柏原村に在り此鬼王と團三郎との二人は當村の産にして晉我兄弟に仕へ忠義を尽せり此塔竹林の中に在り瘡疾を患ふる者祈願を籠むれば平癒すとて土人は數醫師と異名すとぞ

晉我祠 同所に在り鬼王團三郎主君に離れて出家し諸國行脚の後は此地に菴を結び晉我兄弟の菩提を吊ひ遂に塔を建て又祠を營みて恭敬し此に終りを遂げたりとぞ

月峯寺 大里村に在り眞言宗なり古は山上に在りたるを以て劔尾山と号せり當寺は聖德太子の開闢なり百濟國の日羅道人劔尾山に登りて岩上に端坐し護摩を修したるを以て千手觀音出現ありしと云ふ夫より伽藍を建てたりしが其後兵火に罹る等の事あり今の如くなれり

笑面山瀧安寺 笑面山に在り天台修験道にて聖護院に属す當寺は役行者の開基にして白雉年中の創建なり本社ほんしやの辨財天べんさいてんは長一尺五寸許りあり役行者の作にて日本四所辨財天の第一なりと云ふ四所とは當社の外、江州の竹生島、相州の江島、薩州の巖島を云ふなり本地堂には智證大師の作長四尺五寸許りの如意輪觀世音を安置し行者堂には行者自作の像を安ず此他聖天尊社、神水あり山には楓樹多く有名の瀧に映じ瀧より流るゝ笑面川を染め其景實に絶佳なり

笑面瀧 本社より十八町奥に在り瀧水は巖頭より飛瀉して石面を走り落ること總へ十六丈瀧壺より泡を飛ばすは珠を散らす如く霧を噴くこと雲の如し瀧の上に碧潭あり之を龍穴と云ふ

勝尾寺 島下郡勝尾山の高嶺に在り古義眞言宗にして山号を應頂山と云ひ又菩提院と号す當寺は善仲、善算、二師の開基にして神龜四年

山に入りて草菴を結びしに起る、其後天平神護元年光仁天皇の皇子桓武天皇の皇兄に當らせ給ふ開成皇子也此に來りて遁世し給へり此他後世に通じて由緒多き寺院なり又當寺は西國巡禮第廿三番の札所にして講堂には十一面觀世音を安置し如法堂には開成皇子の御作薬師如來を安置せり境内には堂塔多し

總持寺 總持寺村に在り古義眞言宗にして山号を補陀洛山と号す西國巡禮第廿二番の札所あり當寺は宇多天皇の寛平二年越前大守藤原高房卿の草創にして一條、後一條、白河、鳥羽の四帝行幸おらせら

れて勅願所と爲りたり元龜年中高山右近の兵火に罹り諸堂悉く灰燼と爲り慶長八年豊臣秀頼公之を再建せり本尊は十一面觀世音菩薩にして此他試觀音を安置す

本照寺 島上郡富田に在り眞宗にして富山養壽院と云ふ本尊は阿彌陀佛にて開基は存如上人の常隨式部卿正信房なり富田御坊といふ是なり

慶瑞禪寺 富田に在り禪宗黃檗派にして群雲山と号す當寺は其初景瑞寺と稱し道照法師の開基にて法相宗なりしが中頃諸堂兵火に罹りて唯一堆の松林のみ存れり然るを應永年中松岩禪師中興し夫より種々沿革ありて延寶二年今の如くなりしとぞ本尊は印度の毘首羯摩の作

赤栴檀香木の觀世音にて後水尾天皇の御念持佛なりしを寛文二年御寄附あらせられしと云ふ

三島江 淀川に瀆する處にて三島江村に在り風景絶佳にして古歌の名所なり

玉川 三島江の西の方田畔の中に在り津國の玉川とて日本六玉川の一なりしが今は古跡のみ、是れ亦古歌の名所なり

能因法師の墳 古曾部村に在り法師幽棲の古跡なり

旗立峠 大澤村の後に在り一の谷の役に源義經旗を立てしとも云ひ一説には建武の頃赤松入道圓心此處に屯して旗を立てしとも云ふ

櫻井驛 神内村の東に在り楠公の小楠公に遺訓して河内に歸らしめら

れたる地なり

阪口八幡祠 櫻井村に在り楠公小楠公と訣別の時菊水の旗を此處に

納めしと云ふ

寶城菴 櫻井村の山手に在り禪寺ありて其寺に之楠公の畫影軍器旗等

あり由緒ある寺なり

待宵小侍従の墓 右同處に在り小侍従は石清水の別當光清の女にて近

衛天皇の皇后に仕へ和歌を善くせし人なり

水無瀬宮 廣瀬村に在り官幣中社にして後鳥羽、土御門、順徳の三帝

を合祀す後鳥羽天皇隱岐遷幸の前一時此に移御し給ふ即ち建保五年

正月十日にして水無瀬の離宮とも又新宮とも申奉れり又此社地

は文徳天皇第一の皇子惟喬親王在せしことあり惟喬親王は年長じて

在せしに御弟に當らせらるゝ惟仁親王時の關白忠仁公外祖となるを

以て立て、東宮と爲しまるせり是れ則ち清和天皇なり是に於て惟

喬親王は御心よからず洛外北山及び山崎水無瀬の宮に幽棲したまへ

り之を水無瀬殿と申したり

水無瀬瀧 水無瀬山の山瀧にあり水無瀬川は此瀧の上流にて何れも古

歌の名所なり

西観音寺 山崎の西、信善谷に在り天台宗にして慈悲尾山と号す本尊

は十一面觀世音なり當寺は舊と是より西南の山間にありて 聖武天

皇の天平十八年大僧正行基勅をうけて草創したり本尊は 聖武帝

の御念持佛なり其後延行者、傳教大師いづれも此山に入て統行し  
後鳥羽上皇も水無瀬よりこゝに御幸ありて本尊大悲を尊信し給へり  
とぞ

江口 西成郡 大道村の東に在り古く河海の交にて海路より入來れる  
者此地にて川船に乗り更ると云へり即ち江の口にて港なりしかば遊  
女屋ありて夫の西行法師に返歌せし妙と云へる有名の遊女もありし  
地なり

崇禪寺馬場 北中島に在る禪宗曹洞派崇禪寺の門前方三町許りの松林  
の地なり正徳五年の頃和州郡山の城主本多侯の家士遠城治左衛門、  
安藤喜八郎の兄弟、弟遠城宗左衛門の雛生田傳八郎に返討に遭ひ

たる處なり此事演劇等に演ずるを以て其名高し崇禪寺には両士の墳  
あり又其携へたる刀、脇差、槍、長刀、鎧帷子等ありとぞ

鶯塚 長柄村田圃の中に在り冢上に古き梅あり此花辨六辨あり又毎  
年舊正月の元朝鶯來りて啼初むると云ふ

源光寺 南濱村に在り淨土宗にして清淨瑠璃山三昧院と号す本尊は天  
筆阿彌陀如來なり當寺は古刹にして聖武帝の天平勝寶年中大僧正  
行基三昧火坑を始めし古蹟なりと云ふ維新前には濱の墓所と云ひた  
り此地より最初巡り初めたる梅田停車場へは僅かの距離なり

大坂名所獨案内終



全 明治二十八年五月十七日印刷  
年五月二十日發行

大阪西成郡堀村六百番屋敷

編輯者 篠田 正 作

大阪市南區末吉橋四丁目八十九番屋敷

發行者 中 村 芳 松

大阪市東區內本町橋詰町六十八番屋敷周嶺社

印刷者 前 田 菊 松

大阪市南區心齋橋北詰八十九番屋敷

發賣所 中 村 鍾 美 堂



版權所有

